

新潟市文化創造交流都市ビジョン 関連事業一覧(平成29年度)

資料2

※実施状況…○:実施、△:一部実施、×:未実施

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
基本方針1 市民の文化芸術活動を支援し、次世代への継承を進めます										
(1)市民が主体の文化芸術活動への支援										
子どもや高齢者、障がい者などすべての市民が、気軽に文化芸術を鑑賞・創作・体験・発表できる機会を充実します。										
	1	新潟市美術展	美術を愛好する市民の創作作品を発表する場である新潟市美術展を実施する。	「第49回新潟市美術展・新潟市美術協会展」 ・会期(前期)10月11日～15日(後期)10月18日～22日 ・会場 市美術館 ・部門 全7部門(洋画、日本画、書道、彫刻、工芸、版画、写真) ・応募 725点(入賞74点、入選533点、落選113点) ・来場者数 5,342人	【課題】 応募点数が減少傾向にある。学生など若年層への周知を図り、裾野を広げ、出品数の増加につなげる必要がある。 【対応】 ・平成26年度より新潟市美術協会と連携して市民向けの講座を実施、引き続き出品に向けた働きかけを行う。 ・公民館利用団体等に直接案内するなど、出品に向けアプローチする。	○	文化スポーツ部	文化政策課		
	2	にいがた市民文学	文芸作品を募集し、優秀作品を収録した「にいがた市民文学」を発刊する。	・作品集「にいがた市民文学第20号」発刊 文芸作品の募集・選考、作品集の編集・販売 ・授賞式の実施	・公民館等の単位での発表の場の確保として実施してきた事業との調整が必要である。性質は異なるものの、文学作品を募集して作品集を作るといった点では類似しており、統合も含め、合理化できる方法を検討していく必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課		
	3	アート・ミックス・ジャパン	日本の伝統芸術を身近に楽しんでもらえる機会を提供。新潟の芸妓文化、踊り文化、伝統芸能を全国へ発信し交流人口の拡大を図る。	・和楽器演奏、狂言、居合、神楽、歌舞伎、日本舞踊、雅楽、落語など日本の伝統芸術による公演を開催 ・アジア4か国の伝統芸術による公演を開催 ・茶席、工芸、着付け、日本酒・食、アニメなど日本文化体験プログラムを開催	・2017は開催期間の拡大や広域開催などを試みたが、有料公演来場者数は減となり、開催方法の再考が必要。 ・東京2020大会に向け日本文化の発信という点で関係者からの評価が高いが、持続可能なイベントとするためには、イベントの魅力を高め、有料公演入場率を高めるとともに県外来訪者が増加するよう方策を練る必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課		
	4	ラ・フォル・ジュルネ新潟	ナント市との交流を牽引する取り組みとして、市民の主体的参加による交流を軸として、本市固有の文化資源を活かした新たな魅力と価値を創造発信し、文化都市としての創造性を高めるとともに、交流人口の拡大と都市の活性化に貢献することを目的とする。	・有料公演 31公演(プレ公演2、本公演29) ・無料公演 27公演(交流ステージ23公演、テアトルラウンジ4公演) ・関連イベント ピストロ広場(食の広場)、こどもたちの音楽アトリエ、花絵アート作り体験、呈茶、いけばなワークショップなど	・市の独自性を打ち出すことが難しいこと、開催費用のあり方についても見直しの必要があることから、ラ・フォル・ジュルネ新潟は中止する。 ・新たな音楽祭の開催など今後の展開については、これまでの成果や関係者の声を踏まえ検討していく。	○	文化スポーツ部	文化政策課		
	5	ふるさとへ贈る手紙	政令市移行記念事業アイデアの中で最優秀賞に選ばれたひとつ。「心のふるさと新潟市」といった温かな都市イメージを発信する。	・「第11回ふるさとへ贈る手紙」作品集発刊 作品の募集・選考、作品集の編集・販売 ・授賞式・記念イベントの実施 賞状授与、受賞作品朗読、ふるさとトーク、新井満氏ミニコンサート	近年は応募総数、来場者数ともに減少傾向にあるが、これまでに全国から延べ約二千もの応募があり、本市の都市イメージ構築・PRに十分に貢献しており、所定の事業目的は達成できたと考えられるため、平成29年度で事業廃止とした。	○	文化スポーツ部	文化政策課		
	6	市民文化遺産	地域の文化的な遺産の認知度向上と後世へ継承する活動を支援する。	・市民文化遺産ガイドブックの掲載内容を修正し増刷	・市民文化遺産ガイドブックをどのように活用していくか。 ・地域の宝と言える市民文化遺産を効果的に活用し、地域活性化につながるよう、各区やアーツカウンシルなどと連携し、方策を練る必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課		
	7	文化プログラムの推進事業(新潟の食と落語を楽しむバスツアー)	レストランバスを活用し、移動中に新潟の食を味わいながら、日本の伝統芸能文化である落語を聞くことで、新潟の豊かな食文化を楽しみ、普段、楽しむ事が少ない落語に触れる機会を市民に提供する。また、新潟の文化プログラムとして発信し、観光ツアー化することにより、交流人口の拡大を目指す。(H29のみの事業)	日程・実施コース: 3種(全5回) ①落語×魯山人と日本酒コース(6/23、30 / 9:15～12:00) 駅南出発～市美術館(魯山人展鑑賞)～車内落語(6/23桂三木男、6/30三遊亭遊里)～現代司酒造(蔵見学)～車内落語(6/23、30桂米多朗)～駅南解散 ②落語×古代ハス観賞コース(6/23、30 / 14:00～16:00) 駅南出発～バス車内で落語(6/23、30桂三木男)～北方文化博物館(館内見学)～車内落語(6/23桂米多朗、6/30三遊亭愛楽)～駅南解散 ③落語×ナイトクルーズコース(6/30 / 18:30～21:00) 駅南出発～車内落語(林家ひろ木)～みなとびあ(休憩)～新潟空港(夜景観賞)～サプライズ演出(林家こん平登場・乗車)～車内落語(三遊亭愛楽)～駅南解散 参加者: 計78名	・レストランバスを活用し、新潟の食と日本の伝統文化・落語を楽しむ企画は、参加者には概ね好評だった。今後は民間の取組へと繋げていく。	○	文化スポーツ部	文化政策課		
	8	美術館だよりWAVEの発行	美術館の活動を広く紹介するフリーペーパーを市内のデザイン会社と協働して制作、市内外に発信する。	デザイナーと協力し、一般の人にはなじみのない面の掘り起しを図り、魅力的な誌面作りを行った。	予算の限られているなか、コンペ等によるデザイナー起用時の人選方法をどうするかといった課題が解消されていない。	○	文化スポーツ部	新潟市美術館		
	9	教育普及事業の実施(アートトリップの実施)	学校での学芸員派遣授業と、児童生徒の来館授業を組み合わせ、学校と連携した鑑賞プログラムを行う。必要に応じ来館時にバスを支援する。	こどもの発達段階や学校のニーズに応じてプログラムを工夫して鑑賞授業を行うとともに、来館のためのバスの支援を行った。	内容的には非常に好評だが応募校にやや偏りが見られる。新規参加校へのPRが課題である。また予算や、マンパワーの制約から、これ以上件数を増やすことも難しい。新規校への積極的な広報を行うとともに、授業結果をフィードバックし、参加できなかった学校へも還元できるよう工夫する必要がある。	○	文化スポーツ部	新潟市美術館		
	10	教育普及の実施	・学校との連携プログラム「オープンギャラリー」「出前美術館」 ・テーマを設定した美術に関する「美術講座」	「出前美術館」は16回開催。「美術講座」「ギャラリートーク」等は15回開催。	予算状況や学校等の都合により開催回数の変動がある。	○	文化スポーツ部	新津美術館		
	11	企画展の開催	多彩な展覧会を開催することにより、新たな発見と感動の場を提供する。	「藤城清治光のメルヘン展」 「生誕80年松本零士の世界展」 「興福寺の寺宝と畠中光享展」 「新潟市の隠れた名品展」 「パリに生きる新潟の作家たち」	幅広い年代の方々から愛され親しまれる美術館を目指すため、さらに企画展を充実させる必要がある。	○	文化スポーツ部	新津美術館		
	12	コレクション展の開催	所作品からテーマを設定しコレクション展を開催し、所蔵品の魅力を発信する。	コレクション展Ⅰ「旅と美術」 コレクション展Ⅱ「所蔵品に見る工芸」 コレクション展Ⅲ「新津の画家 佐藤昭平」 コレクション展Ⅳ「美術館でお花見」	限られた展示スペースのなかで効果的に所蔵品を紹介するため、テーマを設定し紹介する。	○	文化スポーツ部	新津美術館		
	13	美術作品の収集・保存	・美術作品の購入、寄贈受け入れ	情報収集に努め必要に応じて対応する。	同左	○	文化スポーツ部	新津美術館		

基本方針	柱立て	施策の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			14	登録アーティスト及び演劇スタジオAPRICOTによるアウトリーチ事業	生の舞台芸術に接する喜びを社会各層の多くの人々、特に身体的或いは経済的な理由によりリ्यूーとびあに来院することが困難な人に届けていくことで、舞台芸術ファンを醸成することを目的とする。	育成系(★:本事業) ○東響学校訪問 :60回 ○ジュニア音楽3教室:18回 ★APRICOT : 4回 普及系(★:本事業) ○Noism: 5回 ★音楽アウトリーチ :47回	更なる拡充には体制見直し(増員)が必要だが、収益性の低い事業であるため、簡単ではない。 音楽アウトリーチは訪問先を1年ごとに「福祉施設・病院等中心」「学校中心」としており、H29年度はより需要の高い後者だった。よって、実施回数のみを追い求めることは、ターゲットを狭めることになり、好ましくない。	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
			15	博・学連携事業(歴史博物館)	小学校・中学校の見学に際し展示解説等の対応を行うとともに、新潟大学と連携して当館学芸員の寄付講義や大学生の実習受入れを行う。学校のニーズに応じて出前授業にも対応する。	学校団体見学対応112校、中学生の職場体験受入れ3校、大学生への博物館実習受入れ2回(通年編・集中編)、ドイツ・チュービンゲン大学生のインターンシップ受入れ、新潟大学への寄附講義(13コマ)、大学への出前講義2校、小学校への出前授業2校実施。	交通手段が確保できず、学校団体の来訪が難しくなっている。今後も学校との連携を図りながら継続して実施する予定。	△	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
			16	音楽普及事業おんぶんリレーコンサート	市民の音楽愛好家(プレイヤー)による短時間リレー形式の演奏会。日々の研鑽の成果を本物の舞台上でスポットライトを受けて発表する機会を設け、市民の文化活動を活性化させる。	・11/23 …… ジュニアコース、エンジョイコース ・11/24 …… エンジョイコース、クオリティコース ・11/25 …… エンジョイコース、アドバンスコース、クオリティコース、萩原麻未ピアノ・トーク ・出演者数:284人 ・観客数:854人	H30年度より「音文付帯事業費(自主財源)」で実施	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
			17	共催事業「新潟市芸能まつり」	昭和26年から続く「新潟市芸能まつり」は、当初は新潟市・新潟市芸能文化連盟(現:新潟市音楽芸能協会)が主催者となり、近年は、芸術文化振興財団が市に代わり(市は後援)、60年以上に渡って開催され、市民文化の祭典として、新潟市に根付いている。	・第25回大正琴演奏会 ・洋舞踊合同公演 ・民謡の集い ・第37回ギター・タペ ・長唄演奏会 ・能楽大会 ・琵琶演奏会 ・第42回万代太鼓フェスティバル ・新潟交響楽団第100回定期演奏会 ・第65回新潟市小学校音楽祭 にじいろ音楽祭 ・新潟市中学生による水辺の音楽会 など 21企画25公演 ※本事業以外に、リ्यूーとびあが共催するものが63公演	主催者である「新潟市音楽芸能協会」を構成する各団体の会員数の減少	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
			18	観光循環バス運行	点在する観光施設や歴史、文化施設等を効率的に移動できる交通手段「観光循環バス」を運行。来訪者の利便性、回遊性を高める。	通年で新潟駅を発着とする市内中心部を循環する2ルート(白山公園先回りコース・朱鷺メッセ先回りコース)を運行。 各コース通常8便/日、夏期(7/25~8/31)各13便/日、冬期(11/1~3/31)各7便/日。 1回乗車につき大人210円・子ども110円、1日乗車券は大人500円・子ども250円。 1日乗車券提示により特典対象施設あり。	平成31年度からの新潟交通の自主運行に向けた検討を行っている。	○	観光・国際交流部	観光政策課
			19	国際理解・異文化理解の促進	国際理解講座・イベント等を開催し、市民に異なる文化や習慣を理解する機会を設ける。また、日本語を習得したい外国籍市民向けの日本語講座を開設、更にボランティアグループによる日本語教室への教材費の支援などを行っている。以上の事業により、新潟市民・外国籍市民の相互理解を図る。	・高校生留学支援(留学奨学生2名選考) ・ロシア語スピーチコンテストの実施(出場者14名) ・外国を知る講座(米国、中国、韓国、ロシア、フランス)、子どもたちが世界に親しむ日(外国の絵本の読み聞かせ) ・アウトドア・フェスティバルの開催(外国人21名、日本人38名参加) ・新潟まつり民謡流しへの参加(17か国113名) ・留学生ホームステイ体験(留学生32名、受入れ家庭27世帯) ・第27回にいがた国際映画祭を共催(7作品上映、471名観覧) ・交流サロン利用促進事業(「おしゃべりサロン」15回開催・延148名参加、展示「姉妹友好交流都市の紹介」等 7会期実施)	・実施のための事業予算の確保 ・更なる周知のための、新たな広報、PR方法の工夫、検討	○	観光・国際交流部	国際課
			20	「にいがた子育て応援アプリ」の運用保守(子育て応援情報発信事業)	妊娠期から小学生を持つ子育て家庭を中心に、手軽に子育て応援情報を得られるとともに、利用者にあった子育て応援情報の発信を行い、安心して子育てができる環境づくりを進める。	掲載情報の充実や広報活動を実施するとともに、引き続き子育て関連情報を積極的に発信した。また、利用者の声に基づき、アプリの改修を実施。(ダウンロード数5,233件(延べ16,022件) 平成30年3月末時点)	【課題】 利用者数、ダウンロード数拡大のため、さらなる周知・広報及び掲載情報の充実が必要。 【今後の対応】 アプリ運用を継続するとともに、利用者の声等に基づくバージョンアップや情報の見直しを検討。	△	子ども未来部	子ども政策課
			21	にいがたつすこやかパスポート事業	小学生以下の子どもがいる世帯を対象に配布している「すこやかパスポート」を持っている方に対し、施設の入場券の割引等を行う。	協賛企業に対し協賛継続のお願いを行うとともに、対象年齢の拡充に向け協賛店に理解を求め、H30年度から小学生から中学生までに拡充することになった。	店舗数の伸び率の鈍化	○	子ども未来部	子ども政策課
			22	放課後児童クラブ地域連携事業	コミ協が放課後児童クラブの学童を対象に昔遊び等を教えるなどの活動を実施した際に補助金を交付し、様々な文化を伝えるとともに地域の子どもを地域が見守るしくみをつくる。	コミ協の会合等で説明を実施するとともに、個別に参画に向けて直接交渉を行った。	コミ協の事務負担につながることから、新たな参画が難しい。	△	子ども未来部	子ども政策課
			23	アウトリーチ事業	劇場や会館に自力で来られない人々のために、一流の演奏家や音楽家を地域に派遣し、身近に音楽や芸能を楽しんでもらう。	「ヴァイオリン・マリンバ」「ヴァイオリン・ピアノ」「チェロ・ピアノ」「尺八・箏」の4演目のアウトリーチを、区内10カ所の教育施設や健康福祉施設等で開催した。あわせてそれぞれの演目のワンコインご縁コンサートを、音楽鑑賞環境の整った会館ホールで開催した。	事業開催空白地と、事業開催要望が合致せず、事業展開上の空白地域が多少ある。演目により開催環境が整わないこともあったが、会館で移動可能な楽器(電子ピアノ)等を購入、ピアノのない環境でも事業ができる環境を整えた。	○	北区	産業振興課
			24	北区フィルハーモニー管弦楽団ファミリーコンサート	市民オーケストラによる家族みんなで楽しめる演奏会。市民の手で創り上げる音楽をお客様と共有することで、地域の文化芸術を振興するとともに、交流人口の拡大を図る。	『平成29年度文化庁文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業』として助成を受ける。北区音楽文化の祭典の第二弾事業。子供から大人まで楽しめるコンサートを目指した。今年のテーマは「今もあなたのこころに残るあの曲」。子供の頃学校で聞いたことのあるような曲や、テレビ・映画で聞き馴染んだ曲などを披露した。背景のスクリーンには曲に関連した写真が映し出され、観ても聴いても楽しい演出を行った。	「北区音楽文化の祭典」のセット券を用意したが、ファミリーコンサートの売行きが良く、一部単券販売に変更することとなった。地元で定着してきているコンサートであるため、今後も継続していきたい。	○	北区	産業振興課
			25	南区美術展覧会開催委託事業	南区の美術愛好者の創作作品発表の場と区民に身近な芸術鑑賞の場を提供するため、新潟市南区美術協会に開催を委託し展覧会を開催	第11回記念南区美術展覧会 平成29年5月31日(水)~6月5日(月) 出展者144名、157点 来場者数997人	南区美術協会の会員の高齢化	○	南区	地域総務課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			26	ふるさと納涼まつり開催事業	地域で活動する団体やグループの演舞や地元中学生の演奏発表の場、子どもから高齢者までが地域の魅力を十分感じることができるとしてまつりを開催し、開催に伴い地域の絆を深め、地域の力を蓄え、味方地区の活性化に繋げていく。まつりを開催する味方地区ふるさと納涼まつり実行委員会へ補助する。	各種出店イベントの実施、保育園児や地域活動団体・グループの演舞、地元団体による太鼓の演奏・中学生の演奏に加え、演歌・ものまね・大道芸などのステージを実施した。	実行委員会が単独で企画運営できる体制が望まれる。運営主体であるコミ協の組織強化を図る。	○	南区	味方出張所
			27	白根学習館まつり開催委託事業	南区内における芸能文化活動の振興をはかるため、広く区民の参加を求め、芸能発表の機会と鑑賞の場を提供する。 ・出品展示2部門を別会期で開催 ・芸能発表会の開催	・出品展示の開催 ①5団体、展示数180点、入場者数1,200人 ②1団体、展示数150点、入場者数950人 ・芸能発表会の開催 40団体、入場者数1,400人 ・囲碁大会の開催 18人参加	平成12年に白根学習館が開館し、平成14年度から白根学習館まつりとして実施、平成22年度からは、実行委員会が事業を運営。今後も実行委員会で、創意工夫を行い事業運営を行う。	○	南区	白根地区公民館
			28	味方地区スポーツ・文化祭開催事業	スポーツ大会・文化祭等の開催により、地域のスポーツ・文化活動の発表の場を提供し文化スポーツの振興を図る。 ・スポーツ大会開催事業(218千円) ・文化祭・芸能祭開催事業(331千円) ・さつき展・菊花展開催事業(150千円)	・フロアカーリング、綱引き、ゲートボール大会を開催し住民の健康増進とコミュニティ形成に努めた。 ・文化・芸能に親しむ住民のは発表の場として文化祭・芸能祭を開催、心豊かな感性を育む。 ・笹川邸を会場にさつき展・菊花展を開催、愛好家の技術向上と笹川邸を訪れる方へのおもてなしとなった。	・世代間交流が図られるスポーツ大会となるような種目、実施内容とする。	○	南区	味方地区公民館
			29	文化祭・芸能祭開催事業	芸術・創作・文化活動をされている方々の作品発表の場とする。また、地域住民の方々から鑑賞してもらい、芸術・文化に対する創造性といった芸術的感性を高める。	H29.10.22 月潟地区文化祭を開催。 H29.11.12 月潟地区芸能祭を開催。	・芸能祭における音響機器借り上げ料の上昇 ・観覧者の減少対策	○	南区	月潟公民館
			30	西区アートプロジェクト(音楽部門)	区内の公共施設を会場にコンサートを開催するとともに、小学校での楽器体験ワークショップを開催。	コンサート3回、学校ワークショップ1回、一般向けワークショップ1回	協働相手の新潟大学学生が減少する中、どのような形で事業を継続するかが課題。	○	西区	地域課
			31	アートクロッシングにいがた	造形ワークショップの開催、アート作品の展示など。	①新潟大学の学生が作成した作品を4会場(黒崎市民会館・坂井輪地区公民館・西新潟市民会館・内野まちづくりセンター)にて展示 ②子どもを対象としたワークショップを12回開催	当事業に関わっているほとんどの学生が在籍している学部の募集が停止したため、他の学生も巻き込んだ事業展開の検討が必要。	○	西区	地域課
			32	こども夏まつり・こども冬まつり	市内小学3～6年生を30名募集し、体験活動を通じた、仲間づくりや創造性、協調性等を養う。プログラムの中に、創作活動あり。	・テント泊/きもだめし/夕食・朝食作り/こけ玉づくり(以上、夏まつり) ・スタンプ/餅つき・雑煮作り/キャンドルサービス/漆器の絵付け体験	スタッフ不足	○	教育委員会	地域教育推進課
			33	「にいがたマンガ大賞」入賞作品展	「にいがたマンガ大賞」の入賞作品を中央図書館エントランスで展示をし、来館者に見てもらう。	中央図書館エントランスで、前年度の「にいがたマンガ大賞」入賞作品と、新潟ゆかりのマンガ家の応援イラストを展示する。	多くの市民に見てもらうため、引き続き作品展の広報に力を入れる。	○	教育委員会	中央図書館
地域の自然や歴史、文化の魅力を再発見し、地域への誇りや愛着づくりにつながる取り組みを市民と協働で進めます。										
			34	千の風音楽祭	「千の風になって」の歌の心を次世代に大切に受け継いでいくとともに、「千の風のふるさと・新潟市」として全国にアピールする。	第10回「千の風音楽祭」 ・日時 平成30年1月8日(月・祝)13時30分開演 ・会場 リューとびあコンサートホール ・内容 第1部 公募団体(5団体)パフォーマンス 第2部 千の風サミット 第3部 ゲストによるスペシャルライブ ・ゲスト 新井満さん、菅原洋一さん	・平成30年度は、事業費が昨年度の半分以下となり、経費の大幅な削減が必要となる。そのため、出演団体への交通費助成の廃止や、リハーサル時間の短縮、人件費の節減など見直す必要がある。 ・また、限られた予算の中で出演者募集や観覧者募集にあたり、新聞やSNSを活用するなど効果的な情報発信先・方法等を検討する必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			35	ニイガタ安吾賞	本市にゆかりがあり、自らの信念を貫き挑戦し続け、市民に勇気と元気を与える個人や団体を表彰することにより、そうした個人や団体を応援し、支援する。	・候補者募集 ・受賞者選考 ・授賞式・市民交流イベントの実施 賞状授与、受賞とゲストのトークライブ、パネル展示	・平成28年度に方向性を改め「ニイガタ安吾賞」に一新。新潟市にゆかりのある人物を対象を絞り、光を当てること、これまで以上に市民に身近な事業とすることで、坂口安吾の顕彰につなげることにした。事業の効果検証には、一定数の開催は必要であり、第3回目となる平成30年度も引き続き実施する。 ・事業費が大幅に削減されたので、事業全体を見直す必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			36	文化財センター活用事業	文化財センターでの企画展を年4回開催。土器づくり講座等の、新潟の先人の技術や芸術性を学ぶ講座の開催。	企画展4回および関連講演会・講座4回を開催、土器づくり講座などの体験学習会を11回開催した。また、民俗講座を2回、機織り体験などの民俗体験イベントを4回開催した。	ここ数年入館者数が頭打ちな感がある。まだまだ知られていない施設なのでPRを積極的に行いたい。土器づくり講座の火焰型土器を作る回は、県外からの参加者もあり交流人口の拡大へつなげられるコンテンツだと考えられる。	○	文化スポーツ部	文化財センター
			37	にいがた総おどり祭	毎年9月に開催され、様々なジャンルの踊りの団体が参加する「踊りの祭典」。「次の世代へ受け継ぐ心」をコンセプトに、約300年前4日4晩踊り明かしたという祭を、2002(平成14)年に市民が復活させたもの。	9月16日～18日の3日間に渡り、万代シテイ、新潟駅南口広場など市内全10会場にて開催。国内外から244チーム(うち、県外からの参加40チーム)、約15,000人の参加し、踊りを披露。	協賛金の増加など自主財源の確保が課題。	○	観光・国際交流部	観光政策課
			38	多文化共生のまちづくり	留学生が地域への理解を深める場を設けるなどの支援を通じて、多文化共生のまちづくりを推進する	・にいがた発見バスツアー(2回) ・留学生プロモーションビデオコンテスト	参加者募集の方法について、各学校との協力体制を強化する必要がある。	○	観光・国際交流部	国際課
			39	食育・花育センターの管理	本市で生産される米や食材を活かした日本型食生活を柱とする「にいがた流 食生活」を推進するため、季節の料理教室を実施。 (食育・花育センターで実施する事業のうち当該事業についてのみ記載)	・本市で生産される米や食材を活かした季節の料理教室を実施した。	【課題】 料理教室参加者にリピーターが多い。 【今後の対応】 ・SNSを活用した情報発信やちらしの設置場所を工夫するなど、料理教室対象者に即した方法でPRするなど、新規参加者が情報を入手しやすい環境を作る。	△	農林水産部	食と花の推進課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			40	アグリパークの管理	アグリパークの周年祭(5月)、収穫祭(10月)、ふるさと祭り(1月)を3大イベントとして位置づけ、農村地域に伝わる伝統行事(盆踊り、どんど焼き)や食の体験(漬物講座、おにぎり作り講座など)を地域コミュニティ協議会や文化団体と協働して行う。(アグリパークで実施する事業のうち該当事業についてのみ記載)	①周年祭:白根大風の展示、いちご収穫体験、アグリハンバーグづくり体験など ②収穫祭:ハロウィーンウォークラリー、野菜収穫祭、日本一のおにぎり作り体験 ③ふるさと祭り:どんど焼き、カルメ焼き、いろいろアグリ工作体験	「教育ファーム」の名前が先行して周知が進んでおり、一般の利用が制限されていると考えている市民もいることから、これらのイベントなどを通じて、誰もが利用できる施設であることをPRしていく。	○	農林水産部	食と花の推進課
			41	学校教育田	田植え・稲刈り及び収穫祭等、年間の米づくり体験を通じて、米の消費拡大と次世代を担う子どもたちに農業および米に対する理解を深めてもらうとともに、米を中心とした日本型食生活の普及及び定着を図る	81校での学校教育田の実施	[課題] ・日本型食生活の普及、定着 [今後の対応] ・生産調整の見直し等を踏まえた事業内容の見直し	○	農林水産部	食と花の推進課
			42	農業体験学習の推進	学習と農業体験を結び付け、「アグリパーク」や「いくとびあ食花」を中心に、子どもたちや市民が、本市が誇る農業や食に対する理解を深め、ふるさとへの愛情や誇り、生きる力を培うとともに、農業を活性化させる	全小学校での農業体験学習の実施	【課題】 「アグリ・スタディ・プログラム」の質の向上、冬期間の利用の促進 【今後の対応】 ・アグリ・スタディ・プログラム推進委員会による検討 ・アグリ・スタディ・プログラム評価サポート委員会による評価 ・アグリ・スタディ・プログラム体験研修の充実 ・アグリ・スタディ・プログラム成果発表会等による情報共有	○	農林水産部	食と花の推進課
			43	菌ちゃんリサイクル元気野菜づくり	幼稚園・保育園において、野菜くずと微生物を活用した野菜づくりを通して、心を育て、命に対する思いやりを育むとともに、実体験から食や生活習慣を見直す取組みにもつなげる	28園での野菜づくりの実施。また、うち4園については、保護者を巻き込んだ4週間の「もっと元気になる食生活」の実施。	[課題] ・野菜を育てて終わりではなく、土づくりと野菜を育てることを通じて、園や保護者の子育てにどうつなげていくか [今後の対応] ・4週間の「もっと元気になる食生活」の実施体制の確立	○	農林水産部	食と花の推進課
			44	福島潟自然文化祭	12,000本のロウソクでオオヒシクイを描く巨大アート「雁迎灯」や、自然体験イベント「潟の楽校」など、水の公園福島潟全域を舞台に繰り広げられる大イベント。	15,000本のロウソクでオオヒシクイを描く巨大アート「雁迎灯」や、「潟の楽校」などの自然体験イベントを実施	イベント内容の固定化、後継者不足が課題のため、地元大学生を実行委員会に組み込み、柔軟なアイデアを生み出してもらいたい。平成30年度からは市負担額が減少するため、運営に一層の工夫が必要。	○	北区	産業振興課
			45	東区歴史浪漫プロジェクト	1. 普及啓発事業 ①東区の歴史浪漫を区民に知ってもらう 2. 探索調査事業 ②浄土を探索し続ける 3. 関連活性化事業 ③区内で食を中心としたイベントを実施し、経済効果を上げる。 ④区役所・区内でイベントを実施し、にぎわいを創出する。 ⑤マスコットキャラクターを活用し、プロジェクトを盛り上げる。	牡丹山諏訪神社古墳を題材にした東区市民劇団の演劇公演に併せて「東区歴史浪漫フェスティバル」を開催した。	事業実施から6年目を迎え、フォーラムなどのイベントへの参加者が伸び悩んでいることから、来年度はまち歩きなど、健康づくりと併せて東区の歴史に興味を持ってもらえるよう、事業の内容を見直して実施する。	○	東区	地域課
			46	えんでこ(まち歩き)事業	中央区の見どころを市内外の方々に「まち歩き」で楽しんでもらうことで、区の魅力への関心を深めてもらうとともに、「まち歩き」ファンを増やすことで市街地の活性化を図る。	前期 5/13～7/8:18回:定員450人:申込者843人:参加者467人 後期 9/16～10/28:15回:定員375人:申込者452人:参加者335人 スペシャル 3/24・25:2回:定員100人:申込者193人:参加者:96人	区民が特徴ある地域資源にふれられるよう、引き続き事業を展開するとともに、シビックプライドを涵養するため、区民自らが地域資源の魅力を紹介できるような仕組みづくりを検討する。	○	中央区	地域課
			47	発酵食産業PR事業	中央区の伝統産業である、「高品質な発酵食」を広く知ってもらうため「調理実演・調理実習」「味噌づくり体験プログラム」などPR事業を開催する。	・発酵食品を使った料理教室(一般市民対象 1回) ・発酵食品体験プログラム(親子味噌づくり体験 2回)	【課題】 行政側のPRのほか、地域でもイベント開催などにより、積極的に発酵食の魅力を発信していく機運が醸成されている。 これら地域の取組みと行政の支援をうまく一体化させ相乗効果がうまれるような仕組みづくりを引き続き検討していく必要がある。 【今後の対応】 ・地域との事業連携の工夫	△	中央区	地域課
			48	料亭の味と芸妓の舞	市民や観光客などから参加者を募集し、中央区の料亭を会場として古町芸妓の舞や唄の鑑賞と料亭での食事を気軽に堪能してもらう	古町芸妓の舞や唄の鑑賞と老舗料亭での食事をセットにした事業への支援(参加者数 828名)	関係団体が古町花街の新たな活性化事業を検討している中で、今後どのように関係団体と連携を行っていくのかを検討・協議し、事業内容に反映していく必要がある。	○	中央区	地域課
			49	わく灯籠まつりへの参画	かつて田植えの際に使用した「田植え枠」をデザインし、灯籠として活用し亀田排水路公園などに設置することで、灯りの道をつくることにも交流イベントを実施する。	・小学生によるわく灯籠絵付け教室 ・亀田駅東口・西口、亀田排水路公園、亀田本町商店街わく灯籠設置(約220基) ・わく灯籠まつり(ワンデイイベント。地元小学生による亀田木遣りの披露や、スタンプリリーなど) ・イベント全体参加者数 約1,250人	亀田地域を対象とした取組みであったが、今後は地域外・区外にもわく灯籠の魅力をどんどん発信し、さらなる地域活性化を目指す。	○	江南区	地域総務課
			50	たけのこフェア	地域のたけのこをPRし、都市と農村の交流を図る	・たけのこ、地元野菜の販売 ・たけのこ掘り体験 ・竹細工教室 ・たけのこ料理の試食 等	今後も引き続き、地域のたけのこをPRし、都市と農村の交流を図る	○	江南区	産業振興課
			51	梨の実まつり	旬の梨や農産物の販売PRイベントを通じ、地域住民との交流を深める	・梨の販売 ・梨収穫体験 ・梨汁の試食 ・梨数あてクイズや皮むき大会 等	今後も引き続き、旬の梨や農産物の販売PRイベントを通じ、地域住民との交流を深める	○	江南区	産業振興課
			52	江南区旬果旬菜いきいきフェスタ	江南区の食を中心とした魅力を発信することを目的に開催	○農畜産物、伝統工芸品(亀田綿、絵ろうそく)などの展示・販売 ○江南区の農産物を使った加工品の展示・販売 ○イベント ・旬菜とんとん鍋、運命の荒縄、藤五郎梅の種飛ばし大会、クイズ「梨の数当て」、樽ばやし など ※市場まつりと同時開催	支出削減(H29年度▲1,000千円、H30年度▲1,000千円)に努めながら、生産者と消費者の交流、江南区の食を中心とした魅力の発信を行う。	○	江南区	産業振興課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			53	かめだ梅まつり	梅畑スタンプラリーや梅加工品等の販売等により、亀田地区特産の梅をPRする	○梅畑散策コースの設定(散策期間 3月25日～4月8日) ○梅まつりイベントの実施(3月25日開催) ・梅畑スタンプラリー ・梅加工品の販売 ・梅ごはん、汁物の販売 ・梅をつかったもちつき振る舞い ・梅の剪定枝の配布 など	今後も引き続き、梅畑スタンプラリーや梅加工品等の販売等により、亀田地区特産の梅をPRする	○	江南区	産業振興課
			54	小須戸町屋文化交流事業	小須戸の町屋を活用し、町屋の魅力発信や区固有の文化である「石油・鉄道・地域芸術」をテーマとする企画展の開催を通じて、地域文化の交流と啓発を推進する。	小須戸コミュニティ協議会に小須戸町屋「薩摩屋」の開館業務を委託した。	事務事業点検により、事業経費が削減されたのが課題。	○	秋葉区	地域総務課
			55	Akihaの宝 子ども発見・体感・体験サポート事業	秋葉区の宝を地域と連携しながら、区内小学校の子どもたちの地域学習の場として活用し、ふるさとへの愛着と誇りを育むことで、秋葉区の未来を担う子どもたちを育成する。	秋葉区の宝を地域と連携しながら、区内小学校の子どもたちの地域学習の場として活用し、ふるさとへの愛着と誇りを育むことで、秋葉区の未来を担う子どもたちを育成する。	地域と学校の連携をさらに深め、区の宝(特色)を活かした子どもたちの学びと育ちの場としての支援充実を図る。	○	秋葉区	地域総務課
			56	あきは流昔ながらの田の神さま料理	伝統行事である「田の神さま」にちなんだ料理教室を開催	「田の神さま」にちなんだ料理教室を実施。農村地域生活アドバイザーとの交流により伝統文化や料理などの知識を深める。	・参加申込みは多いが参加者の年齢が比較的高く、若い世代への知識の伝承が重要。開催日や周知の方法について再検討の余地あり。 → 事業の見直しにより次年度の実施なし	○	秋葉区	産業振興課
			57	小須戸地区ふるさとレシビ	若い世代にも古くから伝わる郷土料理などを教えてもらい、地産地消及び食育活動の推進を図る。	古くから伝わる郷土料理の料理教室を実施。農村地域生活アドバイザーとの交流により伝統料理などの知識を深める。	・若い世代に向けた事業として計画したが、参加者の7割以上が50代以上となった。開催日や周知の方法について再検討の余地あり。 → 事業の見直しにより次年度の実施なし	○	秋葉区	産業振興課
			58	秋葉区産業祭	特産品をはじめ地元農産物のPR・販売イベントを行い、消費拡大と市民交流の活性化をはかる。	・地元農産物やその加工品の試食販売、それらを活用した郷土料理の販売などを、地域の関係団体と連携して実施。	・財政難の影響で市負担額が減額となったため、これまでと同様の事業実施がH31以降は不可能となるため、事業内容の見直し・再編が必要となっている。	○	秋葉区	産業振興課
			59	にいつ食の陣	秋葉区内の飲食店(約60店)が、地域食材(プチヴェールなど)を利用したメニューや秋葉区にちなんだ創作メニューを、期間限定で提供する。	・参加飲食店での限定メニュー提供 秋葉区の地域食材を利用した、あるいは「鉄道」「花」「里山」などの地域資源をイメージした期間限定メニューの提供 ・スタンプラリー 利用店舗のスタンプを集めると観光施設の割引などが受けられるスタンプラリー	・秋葉区内でのこのイベントの認知度は高く、参加店舗数も安定している。今後とも秋葉区の独自性を打ち出していくために、地域食材の活用などをより一層すすめる必要がある。	○	秋葉区	産業振興課
			60	歩いて見つける!「北国街道」おもてなし事業(まち歩き)	まち歩きを実施し、区内の魅力を発信し、区内の交流人口の拡大を図る。	・まち歩きなどを実施し、区内の歴史・食文化の魅力を発信した。 <内訳>まち歩き 9回、ツアー 7回	・すでにある歴史的なポイントのPRに加え、西区特産農産物の魅力発信や販促もからめたPRが課題。	○	西区	農政商工課
			61	アートクロッシングにいがた	造形ワークショップの開催、アート作品の展示など。	①新潟大学の学生が作成した作品を4会場(黒崎市民・坂井輪地区公民館・西新潟市民会館・内野まちづくりセンター)にて展示 ②子どもを対象としたワークショップを12回開催	当事業に関わっているほとんどの学生が在籍している学部が募集が停止したため、他の学生も巻き込んだ事業展開の検討が必要。	○	西区	地域課
			62	わらアートまつり	武蔵野美術大学の学生達と市民とが協働で作品を制作し、上堰湯公園にさまざまなわらアート作品を展示します。地域の特産品販売や体験教室など、新潟市西蒲区の魅力を発信するイベントです	・わらアート作品5体(うち1体は過去最大)の制作、展示 ・西蒲区を中心とした市内事業者による特産品等の販売 ・潟東小学校との協働による小型わらアート3体制作、展示 ・開催10回記念誌の制作 など	・会場周辺での大規模な交通渋滞の発生と無料シャトルバスの不足への対応。 →交通規制(一方通行)方法の見直し、シャトルバス運行体制の改善。 ・材料となる稲わらに、作品制作の下準備として加工(とば編み)を行う区内農家の高齢化。 →とば編み作業への市民参加強化を図る取り組みの発案。	○	西蒲区	産業観光課
			63	西蒲区うんめもん講座	西蒲区内の伝統食・加工品などの郷土料理を次世代に伝えていく	■干さずに作れる大根のクエン酸漬けの講座を実施 ■郷土料理である本格五目おこわ、かきあえなます、呉汁、デザートとして手作りジェラートの料理教室の実施	教室開催日時の検討	○	西蒲区	産業観光課
			64	越王おけさ柿探訪ツアー	巻地区の越王おけさ柿の地区外PR地元生産者との連携による地産地消に着目した飲食店の活性化	柿ほ場で収穫体験と渋抜き体験 柿の選果場見学 柿を使った料理の食事会	人気のイベントであるが、巻商店街のより多くの店舗で多種類の料理等が提供できる手法の検討。	○	西蒲区	産業観光課
			65	かもん!カモねぎまつり	カモ猟の盛んな潟東地区への誘客と潟東地区特産品の販売を行うことで潟東地区の活性化を図る。また、潟東地区ならではの伝統を継承する。	カモ汁レストラン ふるまいもち 農産物直売 潟東スイーツ販売 ねぎ焼き カモ猟実演 等	補助金削減に伴い、自主財源の確保やイベント内容の見直しが必要となってくる。	○	西蒲区	産業観光課
			66	我が家の味噌作り教室	岩室地区伝統の味噌作りの普及と継承を目的として加工体験を実施	味噌作り教室の実施	人気の高い教室であり、落選者を多く出していることをふまえ、講師と相談のうえ出来る限り多くの人数を受入れできるよう調整する。	○	西蒲区	産業観光課
			67	親子クッキング教室	市内小・中学生とその保護者から各回25名を募集し、地元の食材を使用した調理や、食文化を学ぶ。	以下メニューの調理 ・笹団子 ・米粉ピザとしゅわしゅわゼリー ・クリスマス料理	参加中の撮影について衛生面の配慮から遠慮いただいた。	○	教育委員会	地域教育推進課
			68	自然体験学習推進事業	自然体験や集団活動などの体験活動を通して、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育む。	体験活動をする学級に対して3万円の補助を行い、体験活動の推進を図った。	継続して事業に取り組むための予算の確保が難しくなり、予算は平成30年度から廃止。しかし、今後も各校の計画を集約し、実施状況を把握する。	○	教育委員会	学校支援課
			69	大好きにいがた体験事業	「身近な地域に貢献する」または「新潟市や身近な地域の素晴らしいひと・もの・ことを知る」活動を支援、推進する。	アクション事業推進校34校(小学校28校、中学校6校)、交流事業推進校4校(小学校3校、中学校1校)・34校の実践により、きらっとにいがた発見ブック作成。 市内全小・中・高等学校へ配付。 新潟市立高等学校及び中等教育学校での事業推進	推進校の取組のよさを地域にも広め、地域と学校の協働をさらに進める。また、推進校以外の学校に取組のよさを広め、市立の全小・中・高等学校の活動の充実を目指す。	○	教育委員会	学校支援課
			70	新潟発わくわく教育ファーム推進事業『アグリ・スタディ・プログラム』の推進	学習と農業体験を結び付け、「アグリパーク」や「いくとびあ食花」を中心に、子どもたちや市民が本市が誇る農業や食に対する理解を深め、ふるさとへの愛着や誇り、生きる力を培うとともに、農業を活性化させる。	「アグリ・スタディ・プログラム」に基づき、引き続き、全小学校において農業体験学習を実現できた。	「アグリ・スタディ・プログラム」の質の向上、冬期間の利用の促進	○	教育委員会	学校支援課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			71	懐かしいあの頃のごっつお	農村地域においても高齢化が進み、地域の人々が培ってきた伝統的な文化が失われつつあり、その継承が危ぶまれる中、暮らしの中で創意工夫により必然的に生まれたもの、地域の中で受け継がれてきた料理、それにまつわる歴史、文化、レシピなどを伝承する。	過去の受講生が講師や運営スタッフとなり、講座を開催することで、地域の人々が培ってきた伝統的な食文化を継承し次の世代に伝えることができた。	本事業は3か年実施し、受講生が講師を務めるなど学びを生かし、本事業により食文化の継承が進められたことから次年度以降廃止とする。しかし、更なる地域の食文化を継承していく必要があることから、講師を務めるなどした受講生の活動に対しては、引き続き支援を行う。	○	教育委員会	中央公民館
文化芸術活動を通じて、障がい者などの社会参画を促進します。										
			72	障がい者アート支援とアール・ブリュットの展開事業	障がいのある方のアート活動やアール・ブリュットについて、アーツカウンシル新潟と協働・連携し、他団体等と連携しながら、展示会やワークショップ・セミナーを開催する。また、アーツカウンシル新潟の知見やノウハウを活用し、障がいのある方のアート活動を支援する民間団体等の活動やプロジェクトを支援し、人材の育成を進める。	<ナント市での事業> ■「日仏都市・文化対話2017」への参加 ・平成29年10月19日(木)～21日(土) ・市の取組を発表 ■新潟市美術館企画展「アナタにツナガル展」パネル展示 ・平成29年10月19日(木)～21日(土) <新潟市での事業> ■インクルージョンと演劇in新潟 ○セミナーワークショップ ・平成29年10月2日(月)、3日(火)各日19:00～21:00 ・講師を招き、インクルージョンと演劇をテーマに実施 ○演劇公演 ・平成29年10月4日(水)19:00～21:00 ・TBTB劇団を招聘し、公演を実施 ■アート×コミュニケーション～障がい者アートが人と人を繋ぐ～ ・平成30年2月17日(土)～19日(月) ・アート展示のほか、講演会や福祉施設訪問を実施	・障がい者アートの作品展示については、アートキャンプ新潟や、まちごと美術館など民間団体が主体となり、民間事業者やメディアなどを巻き込んで、次々新しい展開へと発展しているが、障がい者によるパフォーマンスアートは未だ目立った動きが無い。 ・年々予算状況が厳しさを増す中で、一般市民向けの普及・啓発交流イベントを継続していくためには、アーツカウンシル新潟と連携しながら、民間交流を中心とした動きにシフトさせていかなければ、その動きを行政が必要に応じて後方支援する形が望ましい。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			73	福祉バスの運行	老人クラブ等高齢者関係団体及び障がい児(者)関係の団体が研修会又はグループ活動等の参加及び市内の福祉施設の慰問、見学等を行う場合に福祉バスを運行し、その便を図ることにより福祉の向上に寄与することを目的とする。	老人クラブ等の高齢者団体が、市内の公共施設を見学するとき、研修会やグループ活動を行うとき、あるいは福祉施設の慰問、見学等を行う場合に福祉バスを運行する。	憩いの家定期便の利用者が少ないため、調査等を行い、定期便の運行について検討する。	○	福祉部	高齢者支援課
市民、NPO、企業、大学など多様な主体が行う文化芸術活動への支援を強化していきます。										
			74	助成金等内定者資金融資事業	助成団体から助成金等の内定を受けている者に対して、その資金が交付されるまでの間、つなぎ融資を行う。	助成団体から助成金等の内定を受けている者に対し、その資金が交付されるまでの間、つなぎ融資を行うもの。平成29年度は利用実績は0件であった。	活動団体への効果的な情報提供を行うとともに、利用実績等を検証し、事業の効果、有効性を検証する。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			75	潟の魅力創造・発信事業	本市に点在する「潟」に多くの方から来ていただき楽しんでいただく「潟」のエコミュージアム化に向け、潟に係る様々な市民活動を支援するとともに、歴史や暮らし文化など、潟の持つ様々な魅力を発信する各種事業を実施する。 ・潟の魅力創造市民活動補助金の交付 ・潟めぐりスタンプラリーの実施 ・各潟の環境整備の実施 ・シンポジウムの開催 など	・潟めぐりスタンプラリーの実施 市内に点在する潟及び関連施設を含む19ヶ所で実施 ・応募者972人 ・潟シンポジウムの開催 さかなクンによる基調講演など実施:参加者430人 ・潟の魅力創造市民活動補助金の実施 潟での野菜栽培や親子でのピクニック、江戸時代の排水路遺跡を活用した事業などの市民活動を支援:実施件数10件	・新潟開港150周年記念事業に要素を集約することから、平成30年度は休止	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
			76	水と土の宝物活用事業(市民プロジェクト)	市民自らが企画・運営し、アート制作やパフォーマンスの実施、地域の伝統芸能などの取り組みに対し補助金を交付する。	アーツカウンシル新潟と協働のもと、プロジェクトを募集。応募のあった38件には、書類審査に加え、今回初めてプレゼン審査を実施し、23件を採択した。団体の都合により、3件の辞退があったものの、目標とした20件の実施ができた。	・水と土の芸術祭2018にて実施するため平成30年度は休止	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
			77	文化プログラム推進事業(アーツカウンシル関連) ・文化芸術活動の支援 ・調査研究 ・情報発信 ・企画立案	・社会包摂の実現に貢献する、あらゆる市民が主体の文化芸術活動の活性化 ・新潟文化の形成、発信による北東アジアの文化交流拠点都市の形成 ・文化芸術の多面的利活用による文化交流創造都市・新潟の基盤強化とブランド発信 ・持続的・自律的なアーツカウンシル組織の確立	・市民の文化芸術活動に対する助成、相談、マッチング等の支援活動 ・地域文化の担い手育成の支援 ・社会包摂事業の実施に向けた調査研究 ・新潟市国際文化交流事業への支援 ・県内文化施設の連携会議設置に向けた調査研究 ・自主財源の確立 ・アートマネジメント人材育成	・相談件数については、新規相談数を伸ばしていくことが課題である。 ・助成件数、相談件数等市民支援の件数については、アーツカウンシルの機能について広く周知し、存在を示していく必要がある。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課(芸術文化振興財団)
			78	文化プログラム推進事業	本市独自の文化芸術の取り組みや都市間ネットワークを活かしながら、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた「文化プログラム」を推進する。	・文化プログラムの推進 東京2020大会に向けた文化プログラムの認証制度のPR及び認証申請を行った。 ・beyond2020プログラム認証事務 平成29年6月～本市において認証事務を開始した。事務手続きはアーツカウンシル新潟に委託。	・「文化プログラム」の認知拡大、認証件数増加に向け、申請実績のある団体に申請を促すとともに、民間を含めた新規開拓を図る。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
			79	音楽普及事業 おんぶんリレーコンサート	市民の音楽愛好家(プレイヤー)による短時間リレー形式の演奏会。日々の研鑽の成果を本物の舞台上でスポットライトを受けて発表する機会を設け、市民の文化活動を活性化させる。	・11/23 … ジュニアコース、エンジョイコース ・11/24 … エンジョイコース、クオリティコース ・11/25 … エンジョイコース、アドバイスコース、クオリティコース、萩原麻未ピアノトーク ・出演者数:284人 ・観客数:854人	H30年度より「音文付帯事業費(自主財源)」で実施	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
			80	日本海夕日キャンペーン	日本海夕日コンサートや、アートプロジェクト、夕日写真コンクールなど、日本海の夕日にフィーチャーした事業を行うことで、新潟の夕日の魅力を発信し、市民意識の醸成や交流人口の拡大を図る。	・日本海夕日コンサート ・アートプロジェクト(ステージアート、ランドアートやそれに係るイベント・ワークショップの実施) ・夕日写真コンクール・写真展 ・夕日コーラスキッズ ・わたしの夕日 詩のコンテスト	日本海夕日コンサートをはじめとするキャンペーンの諸事業を通じ、新潟の観光資源のみならず文化や市の情勢を全国へ発信することは、新潟市のイメージアップや観光客誘客促進に大きく寄与しているが、補助金への依存度が高い本事業を継続するためには、一層資金運用の改善を図る必要がある。実行委員会に置いても様々な手法を検討している。	○	観光・国際交流部	国際・広域観光課
			81	吉田文庫資料調査事業	歴史地理学者吉田東伍・千秋父子関連資料の調査研究・普及啓発事業を進める吉田文庫の活動支援を図る。	・吉田東伍・千秋父子関連資料の調査・整理の支援。 ・ブックレット(平成30年度刊行)編集の企画・検討。	・平成31年2月に吉田千秋没後100年を迎える。千秋に関する入門ムック作成を支援し、吉田千秋を育んだ秋葉区の個性を次の100年につなげる。入門ムックは区内小学校等に配付し、地域学習に活用する。	○	秋葉区	秋葉区地域総務課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			実施状況	部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応				
			82	地域振興費(既存事業)	地域の伝統文化の保存、地域の文化祭等地域の活性化に向けた事業実施や、開催支援 【主な事業】 ・巻地区文化祭、巻芸能祭、湯東総合文化祭開催 ・越王太鼓、神楽舞、和納無形文化財保存事業 ・西川文化協会補助金 ・ハザ並木保護	文化活動、創作芸術活動の活性化、地域文化の継承のための事業実施や開催支援。	活動団体の維持、後継者育成、来場者数増等の活性化に向けた支援は引き続き必要であるが、組織の自主性を促す働きかけが今後必要である。	○	西蒲区	西蒲区地域総務課	
			83	生涯学習団体補助金	各区における文化関係団体との連携を図り、その活動を通じ文化の普及・振興を図る。	各文化協会及び西川高砂学級への補助金により、各種文化団体の発展と協働による事業を開催。芸術・文化振興と生涯学習の推進に貢献した。	団体の活動や運営が自主的に行えるよう支援していく。	○	教育委員会	中央公民館	
(2)文化創造拠点の活性化											
新潟市民芸術文化会館(りゅーとびあ)や新潟市美術館といった専門性の高い施設では、市民の芸術文化活動を支援するとともに、質の高い舞台芸術や展覧会の開催などにより、先進的な文化創造を国内外に発信します。											
			84	新潟インターナショナルダンスフェスティバル(NIDF)2017	中国・韓国・シンガポールの3ヶ国の舞踊団を招聘した「新潟インターナショナルダンスフェスティバル」を開催し、都市間文化交流の取組みをさらに発展させるとともに、本市の優れた舞台芸術の取組みを国際発信する。	・4作品6公演の実施 日本、中国、韓国、シンガポールの作品を公演した。 ・ワークショップの実施 各カンパニーの滞在中に各カンパニーの芸術監督を講師に迎え、ダンス経験者対象のワークショップを開催した。 ・シンポジウムの実施 本演劇祭アーティストディレクターである金森稯氏のほか、各カンパニーの芸術監督を迎え、「アジアにおける劇場文化の未来」をテーマに議論が交わされた。	・事業を再開するにあたり、開催意義・目的を整理し、前回の反省を考慮しつつ、検討する必要がある。また、その際、経費・運営体制についても十分に検討する必要がある。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課	
			85	企画展の開催	より市民に開かれた美術館をめざし、多くの来館者に足を運んでもらえるような多彩な企画展を開催する。	浮世絵、写真、工芸、グラフィックデザイン等、他館の優れた所蔵品を活用し幅広いジャンルの展覧会を実施した。	実行委員会を組む場合に、展覧会の内容や期間によっては動員目標を達成できないケースがある。現実的な目標設定を行うとともに、さらに集客に努める必要がある。	○	文化スポーツ部	新潟市美術館	
			86	舞踊事業 新潟発創造事業(りゅーとびあ)	Noism1は日本初の劇場専属のプロフェッショナル・ダンス・カンパニーであり、日本のコンテンポラリーダンス界のリーディングカンパニーとして概ね2作品を国内外で公演している。また、地域の舞踊普及や若手ダンサー育成を目的とした研修生カンパニーNoism2も活動している。	創造系(★:本事業) ○プロデュース演劇公演:22回 ★Noism :20回 → 愛の死:6回(新潟・埼玉) NINA:5回(新潟・埼玉) Noism2夏:5回 Noism2定期:4回	・今後の活動期間(現在:H31年8月迄)について市と協議 → 2月議会でH30年度末迄に検討と答弁 ・自主財源の確保 → 法人・個人から募る支援の拡充	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団	
			87	演劇・新潟発創造事業	質の高い新潟オリジナルの演劇作品を創造し、新潟に留まらず、全国各地へ発信し、シビックプライド醸成・交流人口の拡大に貢献する。発信にあたっては、大都市だけでなく地方都市への展開を積極的に行い、地方における鑑賞機会の確保にも貢献する。	創造系(★:本事業) ★プロデュース演劇公演:22回 → エレクトラ :14回(新潟・東京) 星の王子さま :5回(新潟・東京) りく :3回(新潟・東京) ○Noism :20回	H29年度「エレクトラ」は、主催公演の新潟&東京公演が完売、他都市からの受託も多く、大幅に黒字であった。作品のクオリティ及び出演者(NHK朝ドラ主演:高畑充希)によるもの。今後もクオリティについては、芸術監督を中心に担保するが、集客の期待できる出演者のスケジュール確保、多額の売上が期待できる東京公演の会場確保・集客等が課題。	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団	
地域の文化施設では、住民主体の取り組みが容易になるよう支援します。											
			88	美術館協力会との協働	美術館を支援する有志のグループとの協働。美術館ファンの育成、アートを通じた会員の自己実現を狙いとす。	・展覧会事業での連携 新規所蔵作家で、新潟市出身の現代美術家・富井大裕氏の講演会を、協会会総会の記念事業とコレクション展Iの関連事業を兼ねて開催。協会会員以外の方も聴講可能とした。展示中の富井作品への理解を深めると共に、協力会の活動をPRする場ともなった。 ・研修講座部を本格始動 研修講座支援部と改称。ラウンジNでの普及事業「きままプログラム」の準備作業を中心に年4日間活動した。	新規で作成した入会案内や美術館ホームページなどを活用し、引き続き協力会のPRを図る。新しいメンバーが継続的に活動しやすいように、受入れ体制を整える。ボランティア活動を始め、会員がより主体的に参加できるように、意見やアイデアの聞き取りを進める。	○	文化スポーツ部	新潟市美術館	
			89	施設普及事業 地域連携(みなとびあファンクラブ)	市の歴史文化を愛好し、博物館を支援する会員を集う。また会員向けの展示解説や講演会、見学会などのイベントを実施する。	員向けに定期的に催し情報を送るとともに、特典事業として、企画展鑑賞会4回、まちあるき1回、館長バスツアー1回、館長講演会1回、学芸員による特別講座1回を実施。	ファンクラブへの勧誘の強化を図る。	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団	
			90	創造劇「二日月」	会館では、これまで市民参加事業として「市民ミュージカル」「市民オペラ」を多くの市民の参加の基、事業展開してきた。H29年度はこれまでの公演実績をもとに、オリジナル演劇「二日月」を実施、多くの市民の参加を得て、地域文化芸術の振興や活性化を図る。	これまで会館で事業展開してきた、市民参加型ミュージカル・オペラから、新しいスタイルの劇場創造事業を立ち上げた。読書感想文コンクール課題図書「二日月」を原案にオリジナルの創造劇「二日月」を創作、前年度末からキャスト募集を開始、4月より8月公演に向けて数十回の稽古を積み重ね、2日間4公演に臨んだ。	多くの稽古を重ねるうえで大人や子どもたちの芝居が上達する過程が見られ、次世代を担う舞台創造事業として様々なことに挑戦した公演となった。	○	北区	産業振興課	
			91	第5回北区うたの祭典	グループ・サークルの枠を超えて、北区うたの祭典合唱団を毎年結成、県内各地で活動するアーティストや団体と歌声や演奏を発表、地域の住民の交流促進と音楽文化の多様性の伸長を図る。	文化庁芸術文化振興基金(地域の文化振興の活動)を受けての事業。当公演のために公募市民で結成したうたの祭典合唱団と、北区少年少女合唱団をはじめ、ゲストとして童謡歌手として名高い芹洋子さんにご登場いただいた。第一部ではそれぞれの団が昔から歌われている童謡を披露。子供達の個性あふれる演出や素敵な歌声にお客さんも引き込まれていた。第二部は芹洋子さんのステージ、第三部はうたの祭典合唱団と北区少年少女合唱団の合唱に、うたの祭典特別オーケストラの演奏が加わり、大迫力のステージとなった。	今回はNSTとの共催で「うたの祭典」を企画し、ゲストに芹洋子さんをお呼びした。また、オーケストラも特別に編成しプロの演奏で合同の合唱を行い、例年から変化のある公演となった。プログラム構成として演奏曲を多く見取り、公演予定時間よりオーバーしてしまったため今後は公演時間を想定しながらプログラムを構成する必要がある。	○	北区	産業振興課	
			92	東区まんなか文化プロジェクト	東区市民劇団の演劇や、県立大学、区内の文化活動団体と連携した事業により、東区まんなかである区役所庁舎から文化を発信し、にぎわいを創出する。	・演劇公演事業 ・新潟県立大学連携事業 ・文化活動サポート事業	区民の文化鑑賞と活動団体の発表の機会を定期的に提供することで、東区まんなかである区役所庁舎から文化を発信し、にぎわいの創出と地域の活性化を引き続き図ってきたい。	○	東区	地域課	
			93	江南区郷土資料館管理の運営	江南区の歴史・文化を分かりやすく伝える館運営を「江南区郷土資料館を応援する会」などと協働して行う。	・郷土史講座全4回開催 ・郷土資料館自主企画展全4回開催 ・歴史講座全4回開催	【課題】郷土資料館職員の事務の圧迫 【対応】ボランティアの募集、貸館の活用	○	江南区	産業振興課	
			94	市民ボランティアの発掘・育成	講師を務めるボランティアの育成を行う。	・古文書学習会の開催(1回/月) ・江南区郷土資料館スタッフ視察研修の実施(1回)	【課題】人員の確保 【対応】区役所より等の広報活用、古文書学習会や他講座の一般参加者への勧誘	○	江南区	産業振興課	

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			95	文化芸術の創造・発信	親しみやすい事業実施のため、プロポーザルにより民間の高い専門性を活用した委託事業を実施する。	新潟にゆかりのあるアーティストや著名なアーティストによるコンサートを実施した。 ①KOBUFES(新潟ゆかりの若手アーティストによる音楽フェス) 観客:200人 ②岡本真夜コンサート(子ども対象のワークショップを同時開催) 観客:377人	今後は更に民間の専門性を活用し委託事業を充実していくことで、文化芸術の創造と振興を図る。	○	江南区	産業振興課
			96	石油文化普及啓蒙事業	金津油田を中心とした近代産業文化遺産を活用し、市民団体による講演会や野外見学会、小学校への出前講座等を通じて、石油文化に触れる機会を提供する。	石油に関連した講演やイベントを開催するとともに、市内の小中学校への出前講座を行った。	秋葉区の個性であると同時に、新潟の近代化に大きく寄与した石油文化について、一層の普及啓蒙が課題。	○	秋葉区	地域総務課
			97	秋葉区文化会館の管理運営	秋葉区文化会館を指定管理者に管理運営させ、地域における文化活動及び芸術活動の拠点として、市民に音楽、演劇等の鑑賞の機会を提供し、並びに市民の文化活動及び芸術活動を支援することにより、これらを通じた市民相互の交流を推進し、及び地域文化の振興を図る。	鑑賞・普及育成・創造型・交流といった類型の文化事業を主催するとともに、施設利用の受付・許可、その他の管理運営を行う。		○	秋葉区	地域総務課
			98	芸術文化開催事業	白根学習館ラスベックホールを活用した芸術文化事業を市民団体と共催で開催	・ラスベック応援団 平成30年2月12日(日)「座・楽芸会 特別公演」 三遊亭彩大独演会 ・白根文化協会 平成30年2月4日(日)「楽しい弦楽四重奏でファミリーコンサート」	団体の高齢化	○	南区	地域総務課
			99	しろね大凧と歴史の館管理運営費	しろね大凧と歴史の館の管理運営に係る指定管理	指定管理者と協働により、白根大凧合戦並びに白根地区の歴史及び文化を広く内外に紹介するとともに、市民文化の向上に資する。	企画事業の固定化 来館者の減少	○	南区	地域総務課
			100	西蒲区文化施設を運営する市民の会事業	・巻郷土資料館、湯東樋口記念美術館・史料館、岩室民俗史料館、中ノ口先人館、澤将監の館等を活用し、展示会や体験教室、校外学習等を実施	各施設、所蔵品を活用した展示会、体験教室、イベント等の文化事業を実施。	来場者数増、施設の活性化に向け、施設間の連携の構築、効果的な広報手段の検討が必要。	○	西蒲区	地域総務課
文化施設の専門性を活かした次世代の育成や文化芸術をより広く市民に届ける活動を推進します。										
(再)			101	教育普及事業の実施(アートリッパの実施)	学校での学芸員派遣授業と、児童生徒の来館授業を組み合わせ、学校と連携した鑑賞プログラムを行う。必要に応じ来館時にバスを支援する。	こどもの発達段階や学校のニーズに応じてプログラムを工夫して鑑賞授業を行うとともに、来館のためのバスの支援を行った。	内容的には非常に好評だが応募校にやや偏りが見られる。新規参加校へのPRが課題である。また予算や、マンパワーの制約から、これ以上件数を増やすことも難しい。新規校への積極的な広報を行うとともに、授業結果をフィードバックし、参加できなかった学校へも還元できるよう工夫する必要がある。	○	文化スポーツ部	新潟市美術館
(再)			102	教育普及の実施	・学校との連携プログラム「オープンギャラリー」「出前美術館」 ・テーマを設定した美術に関する「美術講座」	「出前美術館」は16回開催。「美術講座」「ギャラリートーク」等は15回開催。	予算状況や学校等の都合により開催回数の変動がある。	○	文化スポーツ部	新津美術館
(再)			103	登録アーティスト及び演劇スタジオAPRICOTによるアウトリーチ事業	生の舞台芸術に接する喜びを社会各層の多くの人々、特に身体的或いは経済的な理由によりリゆーとびあに来場することが困難な人に届けていくことで、舞台芸術ファンを醸成することを目的とする。	育成系(★:本事業) ○東響学校訪問 :60回 ○ジュニア音楽3教室:18回 ★APRICOT :4回 普及系(★:本事業) ○Noism:5回 ★音楽アウトリーチ :47回	更なる拡充には体制見直し(増員)が必要だが、収益性の低い事業であるため、簡単ではない。 音楽アウトリーチは訪問先を1年ごとに「福祉施設・病院等中心」「学校中心」としており、H29年度はより需要の高い後者だった。よって、実施回数のみを追い求めることは、ターゲットを狭めることになり、好ましくない。	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
(再)			104	博・学連携事業(歴史博物館)	小学校・中学校の見学に際し展示解説等の対応を行うとともに、新潟大学と連携して当館学芸員の寄付講義や大学生の実習受入れを行う。学校のニーズに応じて出前授業にも対応する。	学校団体見学対応112校、中学生の職場体験受入れ3校、大学生への博物館実習受入れ2回(通年編・集中編)、ドイツ・チュービンゲン大学生のインターンシップ受入れ、新潟大学への寄附講義(13コマ)、大学への出前講義2校、小学校への出前授業2校実施。	交通手段が確保できず、学校団体の来訪が難しくなっている。今後も学校との連携を図りながら継続して実施する予定。	△	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
			105	ジュニア音楽3教室及び演劇スタジオAPRICOT育成事業(リゆーとびあ)	青少年を対象としたオーケストラ、合唱、邦楽、演劇の活動を年間通して行ない、地域の舞台芸術を担う人材の健やかな発達を図るとともに、舞台芸術に関わる市民層を拡大することで、将来に向けて、地域の舞台芸術活動及び鑑賞者の水準を高めるための環境づくりを図る。	ジュニア音楽3教室 ・オケ定期演奏会 ・オケクリスマスコンサート ・合唱定期演奏会 ・合唱クリスマスコンサート ・邦楽定期演奏会 ・スプリングコンサート(3教室) ・ジュニアコーラスフェスティバル(県内各団体参加) APRICOT ・夏公演 ・春公演 ・体験WS	・団員の確保(少子化の影響顕著) ・家庭の経済状況の変化(子供の貧困) → 高価な楽器購入が必要となるオケに影響 ・良質な指導者の確保 & 信頼関係の継続	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
			106	音楽育成事業にいがた東響コーラス	リゆーとびあ開館の平成10年から続く、市民参加型合唱団。リゆーとびあ準フランチャイズオーケストラ東京交響楽団と年1回必ず共演するため、質の高い市民合唱を育成する。	・練習:通年(指導者 安藤常光氏) ・出演:東京交響楽団第101回新潟定期演奏会(女声合唱)、同106回(混声合唱)	・団員の確保(特に男性) ・クオリティの向上 → プロオケと共演することを目的に運営されており必須 ・良質な指導者の確保 & 信頼関係の継続	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
(再)			107	アウトリーチ事業	劇場や会館に自力で来られない人々のために、一流の演奏家や芸能家を地域に派遣し、身近に音楽や芸能を楽しんでもらう。	「ヴァイオリン・マリンバ」「ヴァイオリン・ピアノ」「チェロ・ピアノ」「尺八・箏」の4演目のアウトリーチを、区内10カ所の教育施設や健康福祉施設等で開催した。あわせてそれぞれの演目のワンコインご縁コンサートを、音楽鑑賞環境の整った会館ホールで開催した。	事業開催空白地と、事業開催要望が合致せず、事業展開上の空白地域が多少ある。演目により開催環境が整わないこともあったが、会館で移動可能な楽器(電子ピアノ)等を購入、ピアノのない環境でも事業ができる環境を整えた。	○	北区	産業振興課
			108	北区少年少女合唱団活動支援	北区内のみならず周辺地域の小中学生を募集、合唱の指導を行う。会館の良い環境下で活動を行う事により、実りある練習を積むことが出来る。子供たちの健全育成・文化芸術の伸長を図るとともに、各種の発表会への出演や保護者をはじめとする地域住民との交流で音楽文化の拡大も図る。	平均月2回〜3回の練習会を開催、事業参加者や地域住民や学校の友人・保護者等が、文化会館の他の事業や公演に興味を持ち、音楽や演劇に対する理解度を深めるよう、事業展開を進めた。2月には「にいがたジュニアコーラス・フェスティバル2018」の幹事団体として臨み、3月に初めての単独公演となる「第1回定期演奏会」を開催した。	会館ホームページに団員専用ページを開設したことにより、次回練習日や年間スケジュールの閲覧がしやすくなったとの声が保護者からあり、ウェブを使った情報公開のメリットを感じることができた。29年度はステージ出演を当館ホールに絞った活動となった。近隣施設でおこなわれる季節のイベントやお祭りへの出演依頼も年々増えているため、それらにも対応できるようスケジュールを検討し、地域に根ざし、長く愛される合唱団を目指したい。	○	北区	産業振興課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			109	北区ジュニア吹奏楽団活動支援	北区内のみに限らず周辺地域の青少年を募集、プラスバンド演奏指導と活動への支援を行う。青少年の健全育成・文化芸術の伸長を図るとともに、保護者をはじめとする地域住民との交流で音楽文化の拡大・情報発信も図る。	概ね月2回～3回の練習会を開催、事業参加者や地域住民や学校の友人・保護者等が、文化会館の他の事業や公演に興味を持ち、音楽や演劇に対する理解度を深めるよう、事業展開を進めた。これまで1月に開催してきた定期演奏会を事業参加児童等の声を反映させて、9月開催に変更「3回定期演奏会」を開催した。	団員は増えてきているが、パートごとの団員の偏りによる演奏の難しさも浮き彫りになった。また、演奏レベルは着実に向上してきているが、それに伴い練習についていけず退団する子や、悩みを抱える子もいるため、団員一人ひとりに今まで以上に目を配りサポートをしていきたい。楽器は打楽器を中心に購入、また寄付もあり今年度も増やすことができたが、引き続き今後も経費補助や寄付等を仰いでいきたい。	○	北区	産業振興課
各施設の発信力を高めるとともに、多様な文化的特徴をもつエリア内のゆるやかなネットワーク化により、エリアの魅力を際立たせます。										
			110	文化施設等を活用した伝統文化PR事業	・旧齋藤家別邸、砂丘館等、中央区内文化施設の連携を図りつつ、伝統文化PR事業を推進する。 以下参考 ※H29年度:「新潟市無形文化財(市山流)と新潟古町花街」(3/17～3/31)会場:旧齋藤家別邸、砂丘館など7施設 ※H28年度:「新潟・古町・花街 かつてと今とこれらと」(2/25～3/31※関連～4/9)会場:旧齋藤家別邸、砂丘館など8施設 ※H27年度:「和菓子の新潟」(2/20～3/21)会場:旧齋藤家別邸、砂丘館など7施設 ※H26年度:「発酵食関連」(3/5～31)会場:旧齋藤家別邸、砂丘館など5施設 ※H25年度:「新潟漆器 竹塗の世界」展(2/4～16)会場:旧齋藤家別邸、安吾風の館、砂丘館	(1) 普及冊子『新潟古町花街の「今」』(増補・改訂版)を発行した。 冊子: B5版24ページ 5,000部(市山七十郎襲名後インタビュー追加) 配布場所: 旧齋藤家別邸、砂丘館、安吾風の館、NSG美術館、北方文化博物館新潟分館、新大旭町学術資料展示館、新潟市美術館 (2) 企画展示やスタンプラリーを開催した。 展示会場: NSG美術館、砂丘館、安吾風の館、旧齋藤家別邸、北方文化博物館 新潟分館 →合計来場者数1,677人 ※スタンプラリーのみ参加施設(新大旭町学術資料展示館、新潟市美術館)の来場者数を合わせた来場者数3,459人 ※スタンプラリー達成人数46人(7施設中5施設で記念品贈呈)	目標8施設に対し、冬期休館中の1施設を除く7施設(展示5施設、冊子配布2施設)の参加となったので、企画内容や開催時期について今後検討する。 また、西大畑エリアの文化施設毎にオリジナルスタンプを作成し、スタンプラリーでの施設巡りのペースを築くことができたので、今後も活用を図る。	○	中央区	地域課
			111	文化会館による自主事業	様々な世代に対し文化芸術に気軽に触れる機会の提供や文化芸術活動への支援を行う。	① 県立大学コンサート2回(平成29年6月4日、8月6日) 観客: 923人 ② ステージで聞く古楽器4回(平成29年4月25日、6月30日、9月14日、12月22日) 観客: 203人 ③ 演劇公演4回(平成29年7月15日、16日、平成30年2月24日、25日) 観客: 696人 ④ 社会人落語祭り(平成29年10月1日) 観客: 399人 ⑤ 江南区ウインターコンサート(平成29年12月9日) 観客: 191人 ⑥ イングリッシュ・プラス・アカデミー(平成30年1月8日) 観客: 89人 ⑦ Konan Brass Festival(平成30年3月18日) 観客: 146人	実行委員会形式で行っているものについては、将来に向けて、自立した市民プロジェクトとして進んでいくよう支援していく。	○	江南区	産業振興課
(3) 子どもや若者、アーティスト・クリエイターの育成・支援										
子どもの豊かな感性や創造力を育むため優れた文化芸術に触れる機会、伝統芸能や文化遺産に親しむ機会を充実します。										
			112	踊り文化推進事業	踊り文化団体の情報発信を行い、事業実施することで、本市独自の踊り文化を普及・継承する。 事業例: Noism2中学校出前公演(11月)、高校ダンス部向けワンデイスクール(3月)、高校生ダンスフェスティバル(8月) ほか	○中学校出前公演 ・実施日・学校: 9/21 曾野木中学校、9/22 小針中学校 ・演目: Noism2「火の鳥」 ○高校ダンス部員向けワンデイスクール ・実施日・会場: 3/11、りゅーとびあ スタジオB ・内容: 高校ダンス部員を対象としたNoism舞踊体験ワークショップ ○高校生ダンスフェスティバル ・実施日・会場: 8/18、新潟テルサ ホール ・内容: 神戸大会に参加した市内高校が出演し、大会の演舞を披露する。 ・出演校: 新潟商業高校、新潟中央高校、東京学館新潟高校、新潟清心女子高校、新潟青陵高校、新潟明訓高校	・中学校出前公演について、8区でのモデル実施が終了し、また、ワンデイスクールについても、ニーズと成果が合い、市内高校ダンス部のレベル向上に寄与した。 ・本事業にて一定の成果を得たことから、一旦区切りとして事業を終了する。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			113	水と土の宝物活用事業(こどもプロジェクト)	アーティストを招へいし、ワークショップを通じて子どもたちの創造性を育む企画を実施	・全5回のワークショップのうち、夏に過去の芸術祭作品を親子で巡るキッズ・バスツアー、畑から野菜を収穫し、調理する体験の料理教室及びアフリカ音楽に親しみ、体を動かすワークショップを開催。冬には大学や地域で活動する市民団体を講師に迎えたワークショップを各1回ずつ開催した。	・水と土の芸術祭2018にて実施するため平成30年度は休止	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
			114	能楽・普及事業	公立の施設として全国的にも設置数の少ない伝統様式の能楽堂を持つりゅーとびあの特徴を生かし、本物の「能楽」に触れる機会を増やし、市民の日本の伝統芸能に対する理解を醸成する。	・能楽基礎講座「若手能楽師に聞く能の楽しみ」(4/22、11/25、2/17) ・能楽体験教室『「羽衣」を体験しよう!』(6/22、1/22) ・観世流能楽鑑賞教室(9/27～11/17) ・さわってみよう能の世界(1/20) ・囃子ワークショップ(6/7) ・狂言ワークショップ(2/27)	文部科学省の学習指導要領に「和楽器の指導については(中略)生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること」とあり、和楽器を体験できるワークショップを学校と連携して開催している。 実施校を増やすためには、体制見直し(増員)が必要だが、収益性の低い事業であるため、簡単ではない。	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
			115	こども創造センター管理運営事業(指定管理者制度)	こども創造センターの管理運営(指定管理者制度)	子どもを対象とした創作・体験活動の場、親子が安心して過ごせる場の提供をメインに、地域の活動情報の発信や人材育成も行った。	平成29年度については、大雪やそれによる交通障害等もあり入館者数が減少となった。天候や休日の減少が入館者数に大きく関係しているため、今後は、年間の傾向を踏まえ創意・工夫を行い、また利用者満足度を高めることで、利用者数を確保していくことが必要である。	○	こども未来部	こども政策課
			116	本物の舞台芸術鑑賞事業	優れた音楽や文化芸術に触れる機会を提供し、体験を通して、豊かな心を育む。	○わくわくキッズコンサートの開催 ○「こころの劇場」招待公演の開催 ○文化芸術による子供の育成事業巡回、派遣公演実施	○「こころの劇場」は10月1日～3日に公演予定である。 ○引き続き、地域や日本の伝統や文化を体験することにより、子どもたちに伝統文化のすばらしさや継承することの大切さを伝え、理解を深める。	○	教育委員会	学校支援課
文化施設の専門性を活かした次世代の育成を推進します。【再掲1(2)】										
			117	ジュニア音楽3教室及び演劇スタジオAPRICOT育成事業(りゅーとびあ)	青少年を対象としたオーケストラ、合唱、邦楽、演劇の活動を年間通して行ない、地域の舞台芸術を担う人材の健やかな発達を図るとともに、舞台芸術に関わる市民層を拡大することで、将来に向けて、地域の舞台芸術活動及び鑑賞者の水準を高めるための環境づくりを図る。	ジュニア音楽3教室 ・オケ定期演奏会 ・オケクリスマスコンサート ・合唱定期演奏会 ・合唱クリスマスコンサート ・邦楽定期演奏会 ・スプリングコンサート(3教室) ・ジュニアコーラスフェスティバル(県内各団体参加) APRICOT ・夏公演 ・春公演 ・体験WS	・団員の確保(少子化の影響顕著) ・家庭の経済状況の変化(子供の貧困) → 高価な楽器購入が必要となるオケに影響 ・良質な指導者の確保 & 信頼関係の継続	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			実施状況	部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応				
(再)			118	北区少年少女合唱団活動支援	北区内のみならず周辺地域の小学生を募集、合唱の指導を行う。会館の良い環境下で活動を行う事により、実りある練習を積むことが出来る。子供たちの健全育成・文化芸術の伸長を図るとともに、各種の発表会への出演や保護者をはじめとする地域住民との交流で音楽文化の拡大も図る。	平均月2回～3回の練習会を開催、事業参加者や地域住民や学校の友人・保護者等が、文化会館の他の事業や公演に興味を持ち、音楽や演劇に対する理解度を深めるよう、事業展開を進めた。2月には「にいがたジュニアコーラス・フェスティバル2018」の幹事団体として臨み、3月に初めての単独公演となる「第1回定期演奏会」を開催した。	会館ホームページに団員専用ページを開設したことにより、次回練習日や年間スケジュールの閲覧がしやすくなったとの声が保護者からあり、ウェブを使った情報公開のメリットを感じることができた。29年度はステージ出演を当館ホールに絞った活動となった。近隣施設でおこなわれる季節のイベントやお祭りへの出演依頼も年々増えているため、それらにも対応できるようスケジュールを検討し、地域に根ざし、長く愛される合唱団を目指したい。	○	北区	産業振興課	
(再)			119	北区ジュニア吹奏楽団活動支援	北区内のみならず周辺地域の青少年を募集、バンド演奏指導と活動への支援を行う。青少年の健全育成・文化芸術の伸長を図るとともに、保護者をはじめとする地域住民との交流で音楽文化の拡大・情報発信も図る。	平均月2回～3回の練習会を開催、事業参加者や地域住民や学校の友人・保護者等が、文化会館の他の事業や公演に興味を持ち、音楽や演劇に対する理解度を深めるよう、事業展開を進めた。2月には「にいがたジュニアコーラス・フェスティバル2018」の幹事団体として臨み、3月に初めての単独公演となる「第1回定期演奏会」を開催した。	団員は増えてきているが、パートごとの団員の偏りによる演奏の難しさも浮き彫りになった。また、演奏レベルは着実に向上してきているが、それに伴い練習についていけず退団する子や、悩みを抱える子もいるため、団員一人ひとりに今まで以上に目を配りサポートをしていきたい。楽器は打楽器を中心に購入、また寄付もあり今年度も増やすことができたが、引き続き今後も経費補助や寄付等を仰いでいきたい。	○	北区	産業振興課	
創造的な活動を行う若者の活動を積極的に支援し、文化芸術を創造し支える人材の育成・支援を進めます。											
(再)			120	マンガ家創業・雇用支援シェアハウスモデル事業	マンガ家を目指す若者を対象に住居支援・技術支援など、切磋琢磨しながら創作活動を継続できるように支援し、プロデビューを目指す。	マンガ家志望者の創作活動の継続と居住者同士の切磋琢磨、相互協力による知識や技術の習得を支援し、マンガ・アニメ関連創業支援の構築を図る。	空き家を利用し、街中活性化にもつなげなかったが、希望者も少なく、また、相応しい物件も減少、老朽化が激しいため、事業を見直す必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課	
(再)			121	西区アートプロジェクト(音楽部門)	区内の公共施設を会場にコンサートを開催するとともに、小学校での楽器体験ワークショップを開催。	コンサート3回、学校ワークショップ1回、一般向けワークショップ1回	協働相手の新潟大学学生が減少する中、どのような形で事業を継続するかが課題。	○	西区	地域課	
(再)			122	アートクロスングにいがた	造形ワークショップの開催、アート作品の展示など。	①新潟大学の学生が作成した作品を4会場(黒崎市民・坂井輪地区公民館・西新潟市民会館・内野まちづくりセンター)にて展示 ②子どもを対象としたワークショップを12回開催	当事業に関わっているほとんどの学生が在籍している学部の募集が停止したため、他の学生も巻き込んだ事業展開の検討が必要。	○	西区	地域課	
アーティストやクリエイターの滞在を伴う活動拠点や発表機会を創出し、その活動を支援することで、創造性に富んだ人材が集まりやすい環境づくりを進めます。											
			123	文化創造活動・交流拠点施設整備事業	旧二葉中学校舎を改修し、アーティスト等の創造活動の拠点となる「(仮称)芸術創造ファクトリー」を整備する。市民と行政が一体となり、文化芸術活動に係る様々なプログラムの展開や活動支援、交流を図ることで、次代を担うアーティストやクリエイターの育成を図る。平成30年度開設に向け、平成28年度に実施設計、平成29年度に改修工事を行う。	旧二葉中学校舎を改修し、芸術家等の創造活動や青少年の体験活動、地域交流の拠点となる施設「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(愛称:ゆいぼーと)」を整備。		○	文化スポーツ部	文化政策課	
(4)地域文化の継承と発展											
有形無形文化遺産の収集・保存・調査・研究を継続的に進めます。											
			124	旧市長公舎「風の館」の管理運営	建築物の保存に配慮しながら、坂口安吾を顕彰するための調査研究と資料公開の場として活用する。	・施設の維持管理	・これまで暫定的に坂口安吾資料室として公開してきたが、建物の老朽化が深刻である。現施設で運営を継続するためには大規模修繕が必要であるものの費用が高額で、改修は非現実的である。今後は施設の移転等を視野に入れ、移転に係る調査等と施設職員の処遇の見直しを図るなど運営のあり方を定める必要がある。 ・平成30年度からは、開館日数・時間を縮小するため、来館者数を確保する取り組みが必要である。	○	文化スポーツ部	文化政策課	
			125	開港150周年記念関連事業	平成31年1月の新潟港開港150周年に向け、以下の事業を行い、「みなとまち」新潟の都市イメージを発信する。 ○開港の象徴ともいえる国指定重要文化財「旧新潟税関庁舎」の耐震・防災機能を強化し、保存修理を施す。 ○(仮称)開港150周年記念誌の刊行準備 ○新潟市歴史博物館における記念企画展の開催準備 ○同館シアター映像(アニメーション)の新規作成 など	○新潟税関庁舎工事(通年) ○開港150年史刊行準備(指定管理) ○西安特別展準備(通年)(指定管理) ○アニメーション映像作成(平成30年3月完成)(指定管理)		○	文化スポーツ部	歴史文化課	
			126	文化財保護調査事業	新潟市内に所在の文化財を、国・県・市町村・関係機関及び関係団体等との連携を図り保存・活用する	○文化財の保護 ○文化財指定へ向けた調査		○	文化スポーツ部	歴史文化課	
			127	旧小澤家住宅管理運営	北前船の寄港地として栄えた「みなとまち新潟」の文化遺産である旧小澤家住宅を公開し、企画展や講座等の開催を通して、みなとまちの歴史や生活文化、観光資源等を市内外に発信するとともに、市歴史博物館との一体的管理のもと、「下町」の回遊性を高め、都市観光や中心市街地の活性化を図る	○市指定文化財旧小澤家住宅の管理運営(指定管理)		○	文化スポーツ部	歴史文化課	
			128	史跡古津八幡山遺跡の保存と活用	古津八幡山遺跡の確認調査と調査成果の発信。 史跡古津八幡山弥生の丘展示館企画展を4回開催。 古津八幡山遺跡での植物観察や昆虫観察、弥生の稲作体験など遺跡の立地する里山を生かした体験学習。 校外学習の場としての利用を図る。	・古津八幡山遺跡の史跡指定地外北東域の内容把握のための確認調査と情報発信。 ・史跡古津八幡山弥生の丘展示館企画展を4回開催するとともに、各回において関連講座・講演会、展示解説を実施。 ・古津八幡山遺跡での植物観察や昆虫観察、弥生の稲作体験など遺跡の立地する里山を生かしたイベント・体験学習の開催(2,827人)。 ・個人(7,306人)及び小学校をはじめとする団体(85団体・2,416人)の各種体験学習の受け入れ。	・確認調査や企画展などの開催には相応の予算・人員確保が必要であるが、昨今の市の厳しい財政状況から難しくなっており、調査計画の変更や、企画展回数を減らす必要が生じている。 ・史跡整備から10年が過ぎ、史跡公園に復元した竪穴住居などにき損や経年劣化が認められ、修繕などが必要になっている。 ・周辺施設や各種団体などとの連携をさらに進め、事業効果をより高めていくことが望まれる。	○	文化スポーツ部	歴史文化課 文化財センター	
			129	国指定文化財の保護	国天然記念物「類産ナシ」・国重要文化財「旧笹川家住宅」を適切な保存管理を行うことにより、国民共通の資産を後世に継承する。	国指定天然記念物「月潟の類産ナシ」の原木管理委託	老木となり腐食も激しいため、専門家による適切な管理指導が必要。	○	南区	地域総務課	

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
				地域文化の担い手育成を支援するとともに、郷土芸能の発表機会の充実など積極的な活用を図ります。						
(再)			130	水と土の宝物活用事業(市民プロジェクト)	市民自らが企画・運営し、アート制作やパフォーマンスの実施、地域の伝統芸能などの取り組みに対し補助金を交付する。	アーツカウンシル新潟と協働のもと、プロジェクトを募集。応募のあった38件には、書類審査に加え、今回初めてプレゼン審査を実施し、23件を採択した。団体の都合により、3件の辞退があったものの、目標とした20件の実施ができた。	・水と土の芸術祭2018にて実施するため平成30年度は休止	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
(再)			131	文化プログラム推進事業(アーツカウンシル関連) ・文化芸術活動の支援 ・調査研究 ・情報発信 ・企画立案	・社会包摂の実現に貢献する、あらゆる市民が主体の文化芸術活動の活性化 ・新潟文化の形成、発信による北東アジアの文化交流拠点都市の形成 ・文化芸術の多面的利活用による文化交流創造都市・新潟の基盤強化とブランド発信 ・持続的・自律的なアーツカウンシル組織の確立	・市民の文化芸術活動に対する助成、相談、マッチング等の支援活動 ・地域文化の担い手育成の支援 ・社会包摂事業の実施に向けた調査研究 ・新潟市国際文化交流事業への支援 ・県内文化施設の連携会議設置に向けた調査研究 ・自主財源の確立 ・アートマネジメント人材育成	・相談件数については、新規相談数を伸ばしていくことが課題である。 ・助成件数、相談件数等市民支援の件数については、アーツカウンシルの機能について広く周知し、存在を示していく必要がある。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課(芸術文化振興財団)
			132	演劇・伝統芸能事業「ふるまち新潟をどり」	新潟市無形文化財第1号である「日本舞踊市山流」は、地方である新潟に宗家があり、120年以上に渡って古町花柳界の発展に尽力してきた。この「市山流」を支援し、また新潟芸妓の舞を広く市民に披露するために、新潟三業協同組合、新潟芸妓置屋組合、柳都振興(株)と協力し、公演を開催する。	・2公演実施(入場者数:1,185人) ・協力:BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21 ・協賛:新潟三業協同組合、新潟芸妓置屋組合、柳都振興(株)、柳都振興後援会、新潟商工会議所、新潟経済同友会、ふるまち新潟をどりを応援する会 ・協力:古町花街の会 ・後援:新潟市、新潟日报社	「市山流」への支援にオール新潟で取り組む	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
			133	郷土芸能支援	古町芸妓育成支援協議会、新潟市民謡連盟、新潟万代太鼓振興会の活動である郷土芸能の普及及び宣伝活動を支援する。	古町芸妓育成支援協議会、新潟市民謡連盟、新潟万代太鼓振興会の活動である郷土芸能の振興及び普及宣伝活動を支援する。	郷土芸能の後継者不足が全体としてあるため、積極的に普及宣伝活動に取り組む。	○	観光・国際交流部	観光政策課
			134	新潟まつり	新潟まつりは、住吉祭、商工祭、川開き、開港記念祭という歴史ある4つの祭りが1つとなって、昭和30年に第1回がスタート。日本最大級の「大民謡流し」、「きらきらパレード」、「市民みこし」、「水上みこし渡御」、「大花火大会」など。	日本最大級の「大民謡流し」をはじめ、「きらきらパレード」、「市民みこし」、「水上みこし渡御」、「大花火大会」など、市民が一体となる新潟の夏の一大イベントを開催。	社会の経済状況などにより協賛企業数・金額が大きく変動するため、安定的な財源を確保する必要がある。	○	観光・国際交流部	観光政策課
			135	とやの湖桜まつり	市内最大の桜の名所である鳥屋野潟周辺で様々なイベントを開催し、鳥屋野潟界隈のにぎわいの創出により、交流人口の拡大を図る。	市内有数の桜の名所である鳥屋野潟の桜の木に雪洞を設置、点灯。メイン日には、新潟県スポーツ公園を中心に、物販や「サッカー大会」「カヌー試乗会」「花火大会」などのイベントを実施。	協賛金の増加など自主財源の確保が課題。	○	観光・国際交流部	観光政策課
			136	阿賀野川ござれや花火	阿賀野川にて2尺玉やスターマイン、水中花火などを打ち上げる。	慶祝花火やオリジナルスターマインの「KIBOU」、「花鳥風月」、水上花火、2尺玉など約4,000発の花火が打ち上げられた。そのうち、クラウドファンディングによって集めた資金で、打ち上げられた2尺玉や、「花火女子」5人が女子目線で創り上げたスターマインなどが披露された。	収入面において住民・企業・行政の募金協力や助成、実行委員会の取り組み等に更なる努力と工夫が必要。トイレの増設等の観客のニーズへの対応や堤防上の観客の通路の確保については今後も続けていく必要がある。	○	北区	産業振興課
			137	沼垂まつり	灯籠の押し合いによる、通称「喧嘩灯籠」と沼垂木遣り(きやり)で知られる、200年以上の歴史をもつまつり。民謡流しや、灯籠・山車が並ぶ祭り行列も行われる。	祭りの実施		○	中央区	地域課
			138	子ども向け江南区歴史学習支援事業	授業等による小・中学生の郷土資料館への誘致と子どもを対象とした体験教室の開催により、若い世代に江南区の歴史や伝統を伝え、継承する。	・春休み子ども体験教室(昔のおもちゃ作り) ・夏休み子ども体験教室(土器作り、勾玉作り、火おこし体験) ・冬休み子ども体験教室(縄作り)	【課題】参加者の確保 【課題】早期の募集、区役所だより等の広報活用	○	江南区	産業振興課
			139	小須戸喧嘩灯籠まつり	約370年前、豪商米沢屋吉田屋が京都の祇園祭に魅せられ、灯籠を小須戸に持ち帰ったのが始まり。毎年8月25日に各町内から4基の灯籠が若衆に担がれ、夕方激しくぶつかり合う。	・小須戸神楽舞保存会による神楽舞 ・子ども灯籠お披露目 ・喧嘩太鼓披露 ・灯籠押し合い 若衆によってかつがれた4基の灯籠が、太鼓やほら貝の音とともに町内を練り歩く。25日の夕方に、灯籠が2基ずつに分かれて押し合い。	・開催には相応の規模の予算確保が必要であるが、昨今の市の厳しい財政状況から十分な補助金額の確保が難しくなっている。 ・開催日の曜日が平日に当たる場合が多く、灯籠の担ぎ手の確保が困難となってきている。 まつりに参加しやすい、参加したくなるような仕組みを造っていくことがなご一層求められている。	○	秋葉区	産業振興課
			140	にいつ夏まつり	新津本町にて、約1,000人が浴衣と編み笠で踊る戦国時代から伝わる「新津松坂流し」、各町内が誇る絢爛豪華な7台の屋台が練り歩く「屋台まつり」が行なわれる。併せて約150店の臨時露店が出店。	・新津松坂流し 8月16日の夜に、新津本町の目抜き通りに1,000人の踊り子が「新津松坂」の唄に合わせて踊る華麗な民謡流し ・新津屋台まつり 8月19日と20日に7つの絢爛豪華な屋台の運行が行われる。特に20日の夜は、新津本町の目抜き通りに屋台が一斉に練り出し、大通り狭しと引き回される。	・新津松坂流し 踊り手の参加人数が減少傾向にある。中学生の参加を促す取り組みが行われているが、今後は大人の参加を促す取り組みも必要である。 ・屋台まつり 荒々しいまつりであるため、参加者と見学人の安全確保が課題である。実行委員会では様々な取り決めが議論されている。	○	秋葉区	産業振興課
			141	伝統文化等保護継承団体活動支援	地域の伝統文化を継承する団体に補助金などを交付することにより、伝統文化の継承と後継者育成を図る。	市指定文化財などの伝統文化・芸能の後継者育成や保護に関わる団体へ指導謝礼の支払い。(計6団体) 白根しほり、白根の獅子舞、茨曾根太々神楽舞、臼井棒踊り、新飯田神楽舞、浜おけさ	課題:指導者の高齢化と後継者の育成 対応:発表の機会を設け、引き続き活動を支援する。	○	南区	地域総務課
			142	かぐらin笹川邸	重要文化財旧笹川家住宅(笹川邸)を会場に、地域に伝わる神楽舞や太鼓などを披露する。	・神楽舞 ・和太鼓 ・よさこいソーラン ・真打落語 ・茶会 ・鍋料理ふるまい	区外からの誘客を促進するため、積極的な情報発信が必要。	○	南区	産業振興課
			143	月潟観光キャンペーン「大道芸フェスティバル」	大道芸人によるストリートパフォーマンスのほか、角兵衛獅子の舞、月潟太鼓を披露する。	・大道芸パフォーマンス8組 ・よさこいソーラン5団体 ・角兵衛獅子 ・出店	実行委員会事務を月潟商工会へ移管した。開催準備にあたり支障の無いように連携していく。	○	南区	産業振興課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			144	白根大凧合戦	中ノ口川の両岸から畳24枚分ほどもある大凧を揚げ、空中で絡ませて川に落とし、相手の凧網が切れるまで引き合う世界最大スケールの大凧合戦。	・凧合戦 ・ブレイベント北風まつり(火曜) ・花火大会(土曜) ・お祭り広場(日曜) ・南区「食」の合戦(土曜、日曜) ・茶会 ほか	自主財源の確保	○	南区	産業振興課
			145	月湯まつり開催補助金	伝統あるまつり(伝統芸能)を継続実施することにより、地域の活性化と、伝統芸能「角兵衛獅子の舞」の継承啓発を図る。	地元小中学校、自治会、町内会と様々な催しものを行っている。特に角兵衛獅子は全国からの来場があり、H29年度においては舞台上での演出(見せ方)の工夫を行い好評を博した。(舞台上手袖に「めくり台・舞台上に角兵衛の大のれんを掲げるなど雰囲気考慮した)	実施協議会の運営事務においては市がほぼすべてを行っていることが現状である。今後のことも見据え徐々に実施協議会(自治会)が主体的に運営事務を行える体制にしていくことが必要であると考え	○	南区	月湯出張所
			146	地区伝統文化保存事業	味方地区内の伝統文化である、西白根神楽舞と味方穀倉太鼓の伝承団体に補助金を交付することにより、伝統文化の継承と後継者育成を図る。 ・西白根神楽舞保存会補助金(151千円) ・味方穀倉太鼓保存会補助金(76千円)	練習を重ね後継者育成を図ったほか、南区の開催するかぐらin笹川邸、味方地区納涼まつりなどのイベントでの演奏や福祉施設慰問などを行った。	練習会の補助金制度をやめ、講師謝礼の直接払いにより後継者育成を行う。	○	南区	味方地区公民館
			147	角兵衛獅子保存会補助金	伝統芸能角兵衛獅子の継承と振興を図る。	角兵衛獅子の継承と振興を図る。月湯まつり、観光キャンペーンなどでの活動2回。	・舞手である子ども達の技能習得 ・指導者の後継者育成	○	南区	月湯公民館
			148	月湯小唄の会補助金	伝統芸能月湯小唄の継承と振興を図る。	月湯まつりなど5回のイベント参加。月湯小唄の保存・継承。	伝承者の高齢化と後継者の育成	○	南区	月湯公民館
			149	月湯太鼓の会補助金	伝統芸能月湯太鼓の継承と振興を図る。	月湯太鼓の継承と振興を図る。月湯まつり、芸能祭、大道芸フェスティバルなどでの活動5回。	・伝承者の固定化 ・イベント出演者の負担増加	○	南区	月湯公民館
			150	冬妻ほたるまつり	6月中旬から7月上旬、岩室温泉から徒歩で行ける林道に、ほたるが飛び交い、期間中に灯籠流しなどの催しが行われます。	安全なほたる観賞 ほたる縁日 シャトルバス運行	安全なほたる観賞 交通誘導員の配置	○	西蒲区	産業観光課
			151	西川まつり	曾根神社秋季大祭にあわせて、傘ぼこ行列やサマーコンサートなどが西川地域で行われます。	伝統ある地域のまつりです。傘鉾行列、民謡流し、サマーコンサート、小中学校パレード、神輿渡御などが行われます。	補助金削減に伴い、自主財源の確保やイベント内容の見直しが必要となってくる。	○	西蒲区	産業観光課
			152	越後にしかわ時代まつり	西川地区の歴史的背景を生かし、江戸時代の衣装を着た代官献上米行列を中心としたイベントを行います。	代官献上米行列と称し、一般公募で集まった参加者が江戸時代の衣装を身に付け、商店街を練り歩きます。代官役と奥方役は芸能人が扮しました。	補助金削減に伴い、自主財源の確保やイベント内容の見直しが必要となってくる。	○	西蒲区	産業観光課
			153	まき夏まつり	巻神社大祭に合わせて行なわれる夏まつりです。最終日のやかた竿灯に若者の熱気が溢れます。	伝統ある地域のまつりです。民謡流し、神輿渡御、やかた竿燈、花火大会、小中学校パレードなどが行われました。	厳しい財政状況の中、経費節減に努め、現在のイベント規模を保つ。	○	西蒲区	産業観光課
有形文化遺産の魅力を積極的に発信し、その価値の再認識を図るとともに、特色ある文化資源として活用を進めます。										
			154	みなと新潟「光の響演」事業	夜を彩るプロジェクションマッピングやライトアップに音楽や踊りなどを加え、本市の新たな魅力として国内外へ発信する。また、アーティストやクリエイターにアピールすることで、新たな文化を創造し、クリエイティブ産業の活性化や人材育成につなげる。 さらに、みなとまち新潟の代表的な景観エリアのひとつであるみなと・さかんエリアをライトアップすることで、日常とは異なる新たな魅力を創造し発信するとともに、メイン会場であるみなとびあど都心軸の回遊性を高め、プロジェクションマッピングの集客力をまちなかへ波及させる。	・みなとびあプロジェクションマッピング 過去の国際コンペ優秀作品/国内外のクリエイターによる新作の上映 ・光や映像と音楽・踊りのコラボレーションステージ Noism1、三味線プレーヤー史佳、WORLD ORDER ・光の演出 みなと・さかんのライトアップ、体験型コンテンツ(紙アブリ、光る風船) ・その他 飲食ブース、しもまち早川堀通り☆キャンドルナイト(関連イベント)	・台風の影響で来場者数が落ち込んだ。 ・開催には相応の規模の予算確保が必要であるが、昨今の市の厳しい財政状況から難しくなっている。 ・来年度は開港150周年の年であり、本事業が柱の一つとなることから、予算の縮小感及びマンネリ感を感じさせないよう工夫が必要。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			155	市民文化遺産	地域の文化的な遺産の認知度向上と後世へ継承する活動を支援する。	・市民文化遺産ガイドブックの掲載内容を修正し増刷	・市民文化遺産ガイドブックをどのように活用していくか。 ・地域の宝と言える市民文化遺産を効果的に活用し、地域活性化につながるよう、各区やアーツカウンシルなどと連携し、方策を練る必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			156	歴史博物館企画展等実施事業	市域の歴史的特性を明らかにし、市民の歴史に対する理解を深めるとともに、歴史を媒介とした市民交流を行うことにより、市民の社会的活動及び文化的活動に寄与することを目的として、館所蔵資料などの研究・活用を通して企画展を開催する(年4回程度)	歴史博物館企画展(指定管理) ○「え?展-近代絵画のわすれもの」 ○「乙女たちの歩み~新潟の女学校と女学生~」 ○むかしのくらし展「旅はぼうけん」 ○「収蔵品展『観光・新潟』・新収蔵品展」		○	文化スポーツ部	歴史文化課
			157	歴史的公文書保存事業 歴史文書保存整理活用事業 歴史情報発信事業	長期保存行政文書や歴史資料について調査・収集・整理し、その保存・公開を図りながら、歴史講座の開催などを通じて情報発信を行う。また、資料のより効果的な保存・活用のため、文書館の設置を目指す。	○「新潟市のあゆみ ○○区の歴史」講座(西蒲区・南区・江南区・秋葉区・西区・北区)の開催(参加人数 609人) ○歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」(3回開催 609人)	・大幅に伸びた各種講座の参加人数が日常のレファレンス利用件数に結びつくように、新潟市の歴史に対する関心を向上させるための基礎的な作業を進める。	○	文化スポーツ部	歴史文化課
			158	天然記念物鳥屋野逆ダケの藪管理活用事業	国指定天然記念物である「鳥屋野逆ダケの藪」を市民にとってより身近な文化財とし、都市部の貴重な自然緑地として保存しながら、継続的に維持管理する。また、近隣の文化財と連携して交流人口の増大を図るとともに、地域史を探究できる貴重な場として位置づけ、広く周知に努める	○天然記念物鳥屋野逆ダケの藪の管理		○	文化スポーツ部	歴史文化課
			159	観光ボランティアガイド養成	来訪者が観光資源を巡る「まち歩き」を楽しめるよう、案内役を務める観光ボランティアガイドの養成に努める。	まち歩き観光ガイド養成講座の開催、「予約のいらないまち歩き」の実施。	ガイドの高齢化が進んでいる。現在活躍しているガイドの質の向上とあわせて、新たな人材の育成にも取り組んでいく。	○	観光・国際交流部	観光政策課
			160	NIIGATA光のページェント	けやき通り150本、新潟駅南口58本の計208本のケヤキに、合計26万個の豆電球が飾り付けられ、幻想的な「光のトンネル」が東西1kmに渡って形成。	けやき通りの約1,280mが幻想的な「光のトンネル」となり、市民及び観光客を楽しませた。初日の点灯式では小学生の合唱やミニライブ等の催しのほか会場に飲食ブース等も設置。	協賛金の増加など自主財源の確保が課題。	○	観光・国際交流部	観光政策課

基本方針	柱立て	施策の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			161	伝統的工芸品展示会開催事業	各組合と展示会を開催することにより、新潟市の伝統的工芸品の発展と振興を図る。	伝統的工芸品の展示・販売、製作体験、製作実演など	【課題及び今後の対応】 ・毎年新規のお客さんはいるが、リピーターが半数以上となっている。 ・今後は、伝統工芸に触れていない新規の方々を増やしていき、多くの方に伝統工芸の良さを伝えていく。 ・また、来場者数に関しても、前年を上回るように普及活動に力を入れていく。	○	経済部	企業立地課
			162	満願寺稲架木並木を活用した観光交流事業	満願寺稲架木並木の景観を活用し、春に手植えによる田植え体験イベント、秋に手刈りによる稲刈り及びはさ掛け体験イベントを開催	5月には手植えによる田植え、9月には手刈りによる稲刈りを実施。「満願寺稲架木並木」にはさ掛けを行い、昔ながらの風景の再現。9月に区内の観光施設の見学を含めたバスツアーを実施。	観光資源である稲架木の活用方法を再定義した上で、これまでの事業効果の検討および事業内容の見直しが必要となっている。	○	秋葉区	産業振興課
			163	笹川邸活性化事業(来てきて笹川邸)	重要文化財旧笹川家住宅の魅力を活かしながら、四季を通じたイベントを開催することで地域の活性化に繋げるとともに、施設の魅力を発信する。	笹川邸の雰囲気を活かした四季をととしたイベントの開催 ・6/3 三遊亭彩大独演会 ・9/24 笹川邸寄席 ・12/23 笛人 本宮宏美コンサートなど	指定管理者制度への移行を検討	○	南区	地域総務課
			164	笹川邸ボランティアガイド	総合学習の一環として笹川邸の歴史や地域の文化を学び、ガイドとして活躍することで地域の歴史を理解する	味方小学校ボランティアガイドへの指導と対応	継続した受入れと「笹川邸ボランティアガイド」の充実	○	南区	地域総務課
			165	歩いて見つける!「北国街道」おもてなし事業(ボランティアガイド養成講座)	観光ボランティアガイドの養成講座を実施し、観光案内できる環境を整える。	大野町ボランティアガイド養成講座開催 ・受講者18名 ・ガイド登録者10名	・H30.5月に大野町ガイド設立総会開催。 ・自主的な活動が円滑に進むよう、引き続き支援する。	○	西区	農政商工課
			166	お茶っこクラブ	市内小・中学生10名を募集し、日本の伝統文化である、お茶の作法等を学ぶ。	・お茶の作法を学ぶ ・お茶会を楽しむ ・講師による講評	学校行事と重なる土曜日があり、参加者数が少なくなった。	○	教育委員会	地域教育推進課
			167	親子七宝焼教室	市内小・中学生とその保護者各回30名を募集し、伝統工芸の七宝焼きを学ぶ。	作業説明、制作	開催時期、告知、申し込みの流れを考慮した場合、新学期始まってすぐよりも9月下旬が望ましい。	○	教育委員会	地域教育推進課
			168	郷土資料のデジタルアーカイブ化	郷土に関する貴重資料をデジタルアーカイブ化し、市民の調査・研究に役立ててもらおうとともに、地域を知るきっかけとする。	新潟市の図書館ホームページのデジタルアーカイブページで、郷土資料のデジタルデータを追加公開した。	【課題】 デジタル公開するためには著作権の許諾確認が必要なので、公開資料の選定を慎重に行う必要がある。 【今後の対応】 ホームページで追加公開し、公開点数を増やしていく。	○	教育委員会	中央図書館
			169	子ども体験活動・ボランティア活動推進事業	土日や長期休業期間に子どもたちに様々なものづくり体験や伝統文化体験等の体験型事業を実施する。事業を通じて自立心や協調性他人に対する思いやりの心を育み、子どもたちの健全育成を図る。 【主な実施内容】 ・新潟漆器体験、大風合戦、白根絞り、鯛車づくり、地域の伝統芸能体験など	子どもたちを対象に、地域の伝統文化や様々な体験をする講座を開催することで、伝統文化の継承や地域への愛着心、社会性を育み、子どもたちの健全育成を図った。	今後も、物づくりや調理実習、伝統文化の継承など様々な活動を体験できる機会を提供し、子どもたちの生きる力や社会性を育む。	○	教育委員会	中央公民館
			170	公民館事業	生涯学習社会にふさわしい人づくり、地域づくりを目指し、市民の学習活動を奨励し支援する。また、地域の自然を知る事や地域団体等と連携して伝統文化の継承と振興を図る。 【主な実施内容】 ・文化祭や芸能祭、茶道・陶芸教室、書道、絵手紙講座など ・内野三川リバーサイドウォーク、北区市民茶会など ・文芸誌の発行	各公民館で文化祭や芸能祭、音楽祭など市民が学習した成果を発表する機会を設け、伝統文化や芸術活動の振興を図った。	地域の文化活動団体や公民館利用団体が学習し、その成果を活かすことのできる機会を提供し、文化芸術の振興と市民の学習活動を支援していく。	○	教育委員会	中央公民館

基本方針2 新潟市らしい文化の発信と交流により世界の中での存在感を高めます

(1)新潟市らしい文化を国内外へ発信

交流人口拡大につながる潜在性が高く、新潟市らしさを際立たせる「みなとまち文化」、「食文化」、「マンガ・アニメ」を中心に戦略的なプロモーションを国内外に展開します。

171	新潟暮らし創造の推進	新潟暮らしの魅力を市内外へPRすることを通じ、若者の流出抑制など定住促進を図るとともに、本市への移住を促進する。	・ホームページの充実、ターゲットに応じた広報 ・首都圏へのプロモーションの実施 ・HAPPYターン交流会の開催、HAPPYターンサポーター認定制度	移住・定住情報サイト「HAPPYターン」等の充実に努めるとともに、首都圏において市主催移住セミナーを開催するなど、市内外に新潟暮らしの魅力を効果的に発信した。また、移住者支援団体との共催で移住者交流会を開催し、移住者同士のネットワークづくりに繋げた。 今後も、新潟暮らしの魅力を市内外にアピールすることで、若者の流出抑制やUIターンにつなげていく「新潟暮らし創造運動」の着実な推進に努めるとともに、庁内推進体制を強化し、関係課との情報共有を徹底していく。	○	地域・魅力創造部	新潟暮らし奨励課
172	にいがたアニメ・マンガフェスティバル(がたふえす)の開催	古町・万代・白山を中心にマンガ・アニメ関連イベントを開催。アニメ・マンガ文化の発信とともに、中心市街地の活性化・交流人口の拡大を図る。	外郭団体や企業と実行委員会を組み、地域や地元企業はじめ出版社など多くの協力のもと、原画展、トークショー、アニメソングショー、痛車展示、飲食・物販ブース、コスプレパレードなどを万代エリア、古町エリア・白山エリアにて展開した。	エリア分散により、来場者が分散し盛り上がりには欠けたのではないかと反省があった。エリアを絞ることにより、フェスティバルとしての盛り上げを演出し、参加者への満足度を高め、集客につなげていきたい。	○	文化スポーツ部	文化政策課
173	マンガ・アニメ情報館及びマンガの家の管理運営	新潟のマンガ・アニメ文化を継承・発展させることにより、地域の文化活動を盛り上げるとともに、これらの文化を市内外に発信することにより、新潟市の観光交流を促進し、地域の活性化も図る。	マンガ・アニメ情報館では、9本の企画を運営するほか、マンガの家でも2本の企画展を実施し、集客を図った。	企画の決定に時間を要し、広報が十分にできず、集客が思っていたほど伸びなかった。見直しを図ってきたい。	○	文化スポーツ部	文化政策課
174	ふるさとへ贈る手紙	政令市移行記念事業アイデアの中で最優秀賞に選ばれたひとつ。「心のふるさと新潟市」といった温かな都市イメージを発信する。	・「第11回ふるさとへ贈る手紙」作品集発刊 ・作品の募集・選考、作品集の編集・販売 ・授賞式・記念イベントの実施 ・賞状授与、受賞作品朗読、ふるさとトーク、新井満氏ミニコンサート	近年は応募総数、来場者数ともに減少傾向にあるが、これまでに全国から延べ約二千もの応募があり、本市の都市イメージ構築・PRに十分に貢献しており、所定の事業目的は達成できたと考えられるため、平成29年度で事業廃止とした。	○	文化スポーツ部	文化政策課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			175	千の風音楽祭	「千の風になって」の歌の心を次世代に大切に受け継いでいくとともに、「千の風のふるさと・新潟市」として全国にアピールする。	第10回「千の風音楽祭」 ・日時 平成30年1月8日(月・祝)13時30分開演 ・会場 りゅーとびあコンサートホール ・内容 第1部 公募団体(5団体)パフォーマンス 第2部 千の風サミット 第3部 ゲストによるスペシャルライブ ・ゲスト 新井満さん、菅原洋一さん	・平成30年度は、事業費が昨年度の半分以下となり、経費の大幅な削減が必要となる。そのため、出演団体への交通費助成の廃止や、リハーサル時間の短縮、人件費の節減など見直す必要がある。 ・また、限られた予算の中で出演者募集や観覧者募集にあたり、新聞やSNSを活用するなど効果的な情報発信先・方法等を検討する必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課
(再)			176	文化プログラムの推進事業(新潟の食と落語を楽しむバスツアー)	レストランバスを活用し、移動中に新潟の食を味わいながら、日本の伝統芸能文化である落語を聞くことで、新潟の豊かな食文化を楽しみ、普段、楽しむ事が少ない落語に触れる機会を市民に提供する。 また、新潟の文化プログラムとして発信し、観光ツアー化することにより、交流人口の拡大を目指す。(H29のみの事業)	日程・実施コース: 3種(全5回) ①落語×魯山人と日本酒コース(6/23、30 / 9:15~12:00) 駅南出発～市美術館(魯山人展鑑賞)～車内落語(6/23桂三木男、6/30三遊亭遊里)～現代司酒造(蔵見学)～車内落語(6/23、30桂米多朗)～駅南解散 ②落語×古代ハス観賞コース(6/23、30 / 14:00~16:00) 駅南出発～バス車内で落語(6/23、30桂三木男)～北方文化博物館(館内見学)～車内落語(6/23桂米多朗、6/30三遊亭愛楽)～駅南解散 ③落語×ナイトクルーズコース(6/30 / 18:30~21:00) 駅南出発～車内落語(林家ひろ木)～みなとびあ(休憩)～新潟空港(夜景観賞)～サプライズ演出(林家こん平登場・乗車)～車内落語(三遊亭愛楽)～駅南解散 参加者: 計78名	・レストランバスを活用し、新潟の食と日本の伝統文化・落語を楽しむ企画は、参加者には概ね好評だった。今後は民間の取組へと繋げていく。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			177	にいがたマンガ大賞の開催	自由で豊かな表現と可能性を持つ漫画文化について、市民に認識を深めてもらうとともに、「マンガ・アニメのまち にいがた」を全国にアピールし、国内外を問わずマンガ文化の拠点都市となることを目的とする。	一般ストーリーマンガ・コママンガ、高校生部門、中学生部門、小学生部門と応募しやすいように部門別にし、大賞を決定し、入選以上の作品を掲載する作品集を作成。こどもマンガ講座も実施した。	応募者数が年々減ってきている中、マンガを描くことの普及事業を行う必要も感じられる。全国的に同様の動きがある中いかに特色を出すかが課題の一つ。応募のしやすさの見直しも検討する必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課
(再)			178	開港150周年記念関連事業	平成31年1月の新潟港開港150周年に向け、以下の事業を行い、「みなとまち」新潟の都市イメージを発信する。 ○開港の象徴ともいえる国指定重要文化財「旧新潟税関庁舎」の耐震・防災機能を強化し、保存修理を施す。 ○(仮称)開港150周年記念誌の刊行準備 ○新潟市歴史博物館における記念企画展の開催準備 ○同館シアター映像(アニメーション)の新規作成 など	○新潟税関庁舎工事(通年) ○開港150周年史刊行準備(指定管理) ○西安特別展準備(通年)(指定管理) ○アニメーション映像作成(平成30年3月完成)(指定管理)		○	文化スポーツ部	歴史文化課
			179	新津鉄道資料館の魅力創造事業	新津鉄道資料館の充実とまちなかの活性化や交流人口の拡大を目的に、新潟・新津の地域資源である「鉄道文化」を積極的に活用し、新潟市の新たな魅力を全国に向けて発信する	・新規展示車両2両の導入 ・ミニSLの設置、運行開始 ・新規展示車両公開の記念式典及び「サンクスフェア2017」の開催	・全国発信に向けての広報・宣伝	○	文化スポーツ部	歴史文化課
(再)			180	演劇・伝統芸能事業「ふるまち新潟をどり」	新潟市無形文化財第1号である「日本舞踊市山流」は、地方である新潟に宗家があり、120年以上に渡って古町花柳界の発展に尽力してきた。この「市山流」を支援し、また新潟芸妓の舞を広く市民に披露するために、新潟三業協同組合、新潟芸妓置屋組合、柳都振興(株)と協力し、公演を開催する。	・2公演実施(入場者数:1,185人) ・協力:BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21 ・協賛:新潟三業協同組合、新潟芸妓置屋組合、柳都振興(株)、柳都振興後援会、新潟商工会議所、新潟経済同友会、ふるまち新潟をどりを応援する会 ・協力:古町花街の会 ・後援:新潟市、新潟日报社	「市山流」への支援にオール新潟で取り組む	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
			181	観光誘客宣伝	国内外で、多様な媒体を利用した観光資源の情報提供・発信並びにキャンペーン、セールス活動を行い、誘客の促進を図る。	国内外で、多様な媒体を利用した観光資源の情報提供・発信並びにキャンペーン、セールス活動を行い、誘客の促進を図る。	観光地としての認知度向上のため、魅力ある着地型観光コンテンツの充実と情報発信の強化を図る必要がある。DCに向け、庁内ミーティング、観光コンベンション等他部署との連携を図りながら、効果的かつ効果的な情報発信を行う。	○	観光・国際交流部	観光政策課
			182	にいがた食の陣	「食」をテーマに、まちなかの賑わい創出、観光の活性化、誘客促進を図る	期間限定特別メニュー・サービスの提供、食事付き宿泊商品の造成、飲食店・観光施設・二次交通などで利用できる地域通貨券「うまさぎっしり湊町券」の発行、飲食店ガイド「街んなかご案内帖」の作成及び配布。 新潟の冬の食を堪能できるイベント「にいがた 冬の陣 当日座」の開催。	協賛金の増加など自主財源の確保が課題。	○	観光・国際交流部	観光政策課
			183	特産品・土産品の振興	全国の百貨店等で「観光と物産展」を開催することにより、新潟市産品を全国に紹介・宣伝し販路の拡大を図るとともに、誘客につなげる契機として本市の観光の魅力を発信する。	東京・千葉などの関東圏や、北海道など遠隔地において、観光物産展を開催。	開催会場数が減少しているなかで、効果的に特産品・名産品及び観光をPRし、どう誘客に繋げていくかが課題。各会場における取り組みを見直す。	○	観光・国際交流部	観光政策課
			184	芸妓の舞鑑賞費助成事業補助金	外国人観光客が鑑賞する芸妓の舞プログラム費用に対する補助事業	海外旅行社が「芸妓の舞鑑賞」を行程に取り入れた旅行商品を催行する際に、その鑑賞費用の一部を助成する	助成制度の認知度向上のため、海外旅行社に対し制度を周知し、申請者となる宿泊施設等から海外旅行社への情報提供を促していく。	○	観光・国際交流部	国際・広域観光課
			185	米と酒を中心としたプロモーション事業	本市の食文化のPRを通じ、本市への誘客を図るとともに、市産農産物の国内外での新規需要を創出するため、米と酒を中心とした市産農産物・食文化のプロモーション映像作成やイベント開催によるプロモーションを展開する。	米と酒を中心としたプロモーション映像制作に向けた調査を行ったほか、海外飲食店やショッピングセンターなどを活用した食材プロモーションを実施。また、関係機関が実施する商談会やセミナーへの事業協力のほか、実需者とのマッチングなど、輸出促進につながる機会を創出した。	【課題】 国内の米消費量が減少している中、国による生産調整の見直しにより、供給過多による米価下落が見込まれており、海外への販路拡大が必要 ・輸出拡大に向けては、商談会や販売促進イベントが実施されているが、海外では、消費者はもちろんのこと、販売側でさえも米や酒に対する知識、理解が未だに不足している 【今後の対応】 ・現地で日常的に消費者と触れ合う販売側の活用も見据えた、プロモーションツールの制作	○	農林水産部	ニューフードバレー特区課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			186	食の国際見本市「フードメッセinにいがた」	食の国際見本市「フードメッセinにいがた」は、フォーラムの目的である「世界に貢献できる都市ブランドの構築を図る」ための国際見本市として、新潟の拠点性を高めていくための場として開催しています。	新潟県内の市町村・商工会議所、商工会等へ、フードメッセへの来場に向けた訪問営業を行い、出展や来場を促す。	【課題】 大都市圏の見本市との差別化や地域食材の発掘、海外企業の誘致など課題も多く、国内外を問わず出展社数や来場者数の増加を続けていくことが必要である。 【今後の対応】 ・地域食材を増やすため、隣接県への営業を強化 ・地元農業者、中小企業の商談力・営業力の強化 ・海外大使館への営業を強化し、海外の出展社数の増加 ・国際課の輸出商談会との連携により海外バイヤーの招へいを行い、出展社とのマッチングを行い輸出実績を増やす	○	農林水産部	ニューフードバレー特区課
			187	食の国際シンポジウム「フードフォーカsinにいがた」	グローバルな視点で食の課題について議論するとともに、食の学術シンポジウムを継続開催していくことで、食で世界に貢献できる新潟を目指します。食品産業の関係者を対象に行うコンパスステージ、研究者や専門家による学術会議のアカデミックステージ、「食と健康」について市民向けの講座として開催するガイダンスステージの3部構成で開催。	食と健康フォーラム2017として、市民を対象に学術面の成果の還元と、食と健康に対する意識を高めるセミナーを開催した。	【課題】 ・対象となる市民の参加が少ない。 ・食の新潟国際賞で得た学術面での情報を市民に分かりやすく還元する。 【今後の対応】 ・フードフォーカsinは休止し、市民向けに特化した食と健康フォーラムを継続開催し、健康寿命の延伸を図る。	○	農林水産部	ニューフードバレー特区課
			188	食の新潟国際賞	食の新潟を生み出した先人である佐野藤三郎氏をはじめとする先人の志を継承し、世界が抱える食の問題に向き合い、命の尊厳を守る活動として、世界の食における課題に先進的に挑戦し、めざましい成果を顕彰する事業。	第5回食の国際賞の受賞候補者の推薦公募、選考事業を中心とした顕彰事業活動に取り組む。	【課題】 ・食の新潟国際賞の知名度向上 【今後の対応】 ・食の新潟国際賞の表彰式を開催する。	○	農林水産部	ニューフードバレー特区課
			189	レストランバスなどを活用したコンテンツ開発	レストランバスを活用し、美しい自然、歴史的景観、伝統芸能などの地域資源と農業体験、酒蔵見学などのさまざまな体験メニューを組合せ、本市の食文化を一体的に体験できる新しい観光コンテンツを開発する。	レストランバスツアーの実施(4月～6月まで)	【課題】 ・民間主体のガストロノミーツーリズムの展開を促進するための体制の構築 ・県外、国外へ向けたプロモーションの強化 【今後の対応】 ・運行体制について、民間事業者との役割分担を行い、市事業の縮小化を図る。	○	農林水産部	食と花の推進課
			190	生産者・料理人・消費者の関係づくり(「農家の日」の開催)	生産者・料理人・消費者が交流する場を創出し相互理解を深めることで、地域の食文化や食文化への理解を深めることを目的に、農村地域での農業体験と料理教室を組合せた「農家の日」を開催する。	受入先生産者・料理人を開拓すると共に、生産者・料理人らの消費者交流の機運を高めるため、受入先発案のアイデアを積極的に企画へ盛り込み、ツアーを設計した。 実績：計6ツアー、中央区、東区を除く全区にて開催	【課題】 行政主体から徐々に民間主体のガストロノミーツーリズム企画へと移行していきたいが、地域の民間旅行業者と農村コンテンツをつなぐオペレータが不在。 【今後の対応】 ・民間旅行業者・ツアーオペレータへの関係地についての情報提供 ・ガストロノミーツーリズム受入に積極的な農業者の情報収集・集積	○	農林水産部	食と花の推進課
			191	食文化創造都市推進事業	新潟市の魅力である「食文化」をさらに磨きあげ、市内外に広く発信し、交流人口の増加や地域産業の活性化を図ることを目的に、産学官民が連携して立ち上げた「新潟市食文化創造都市推進会議」を運営する。会議の趣旨に賛同する企業・団体・個人を会員とし、食文化に関するセミナーの開催や会員が異業種連携して実施する取り組み(食文化創造都市推進プロジェクト)への支援などを実施。	・食文化創造都市推進会議の運営 推進委員会開催 2回 セミナー開催 2回(7月、2月) ・食文化創造都市推進プロジェクト支援事業申請21件、採択13件(うちチャレンジ事業6件、育成発展事業7件)	【課題】 助成金による会員の取り組みへの支援以外にも、取り組みの広報支援や異業種連携のきっかけづくりのセミナーといった会員メリットの創出が課題。 【今後の対応】 ・広報支援の仕組みの検討 ・会員の意見を反映したセミナー企画 ・会員増加のための積極的な勧誘	○	農林水産部	食と花の推進課
			192	食文化創造都市推進プロジェクト	新潟市の食・食文化の新たな魅力や価値を生み出す取り組み「食文化創造都市推進プロジェクト」を新潟市食文化創造都市推進会議の会員が異業種連携して実施する。プロジェクトに採択された取り組みは事業費助成や広報連携などの支援を受けられる。 例：農家・酒蔵・飲食店が手を結んで作る「新潟清酒おむすび」など	・食文化創造都市推進プロジェクト支援事業申請21件、採択13件(うちチャレンジ事業6件、育成発展事業7件)	【課題】 継続して採択されている事業が増えてきたため、新規事業が一定数採択されるような枠組みが必要。また、類似の事業を考えている事業主体のマッチング施策も検討したほうが良いと思われる。 【今後の対応】 ・継続発展事業・チャレンジ事業毎の採択枠の設置 ・連携事業者のマッチング施策の検討	○	農林水産部	食と花の推進課
			193	農業体験観光ツアー	農村と都市が近接する新潟市の特性を生かし、農業体験・食・観光を組み合わせたツアーを開催し、主に首都圏からの交流人口の拡大を目指すとともに、生産現場での生産者との交流を通じ、生産者と消費者の相互の理解促進、農業・農村の活性化を図る。	地域の「食」を活用した体験受入先整備事業	受入体制の充実と周知	△	農林水産部	食と花の推進課
			194	地産地消キャンペーン	市民に地産産の良さを知ってもらうとともに、地産地消推進の店の利用促進と認知度向上を図り、地産地消を推進するためのキャンペーンを実施する。	・地産地消推進の店の認定 新規認定：小売店10件、飲食店24件 ・地産地消キャンペーンの実施 地産地消推進の店を回るスタンプラリー(2種類)の実施 実施期間：8月1日(火)～9月30日(土) 参加店舗：合計100店舗	【課題】 「地産地消推進の店」認定店のメリットにつながる効果的な周知とPR方法の検討 【今後の対応】 平成30年度は「全国ねぎサミット2018inにいがた」の開催等により地産地消キャンペーンは休止となるが、SNSを活用しリアルタイムの情報発信を行うなど、広報・PRを工夫し、引き続き地産地消推進の取り組みを行っていく。	○	農林水産部	食と花の推進課
			195	にいつ鉄道まつり	「鉄道の街にいつ」の歴史と文化を広くアピールするために新津駅前広場を会場としてステージイベント、鉄道模型展示などを開催。同日には総合車両製作所の公開もあり、鉄道ファン必見のイベント。	・ステージイベント YourFriendsなどのアーティストの他、地元芸能団体の出演による歌やダンスのステージ ・新津運輸区 JR東日本の新津運輸区での転車台の開店実演 ・鉄道模型展示 鉄道模型の走行実演展示 ・飲食・物販ブース	・同日にイベントを開催する「総合車両製作所」と「新津鉄道資料館」との企画・広報・交通の連携をさらに継続して強化していく必要がある。 ・ステージイベントが好評であるが、できるだけ「鉄道」にちなんだ出演者を確保し、まつりの趣旨に沿った内容にしていく工夫が必要。	○	秋葉区	産業振興課
			196	白根大凧合戦	中ノ口川の両岸から畳24枚分ほどもある大凧を揚げ、空中で絡ませて川に落とし、相手の凧網が切れるまで引き合う世界最大スケールの大凧合戦。	・凧合戦 ・プレイベント北風まつり(火曜) ・花火大会(土曜) ・お祭り広場(日曜) ・南区「食」の合戦(土曜、日曜) ・茶会 ほか	自主財源の確保	○	南区	産業振興課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			197	料亭の味と芸妓の舞	市民や観光客などから参加者を募集し、中央区の料亭を会場として古町芸妓の舞や唄の鑑賞と料亭での食事を気軽に堪能してもらう	古町芸妓の舞や唄の鑑賞と老舗料亭での食事をセットにした事業への支援(参加者数 828名)	関係団体が古町花街の新たな活性化事業を検討している中で、今後どのように関係団体と連携を行っていくのかを検討・協議し、事業内容に反映していく必要がある。	○	中央区	地域課
質の高い舞台芸術や独自性の高いコンテンツの海外公演や国内外への発信を支援します。										
(再)			198	新潟インターナショナルダンスフェスティバル(NIDF)2017	中国・韓国・シンガポールの3ヶ国の舞踊団を招聘した「新潟インターナショナルダンスフェスティバル」を開催し、都市間文化交流の取組をさらに発展させるとともに、本市の優れた舞台芸術の取組を国際発信する。	・4作品6公演の実施 日本、中国、韓国、シンガポールの作品を公演した。 ・ワークショップの実施 各カンパニーの滞在中に各カンパニーの芸術監督を講師に迎え、ダンス経験者対象のワークショップを開催した。 ・シンポジウムの実施 本演劇祭アーティストディレクターである金森稜氏のほか、各カンパニーの芸術監督を迎え、「アジアにおける劇場文化の未来」をテーマに議論が交わされた。	・事業を再開するにあたり、開催意義・目的を整理し、前回の反省を考慮しつつ、検討する必要がある。また、その際、経費・運営体制についても十分に検討する必要がある。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
(再)			199	舞踊事業 新潟発創造事業(りゅーとびあ)	Noism1は日本初の劇場専属のプロフェッショナル・ダンス・カンパニーであり、日本のコンテンポラリーダンス界のリーディングカンパニーとして概ね年2作品を国内外で公演している。また、地域の舞踊普及や若手ダンサー育成を目的とした研修生カンパニーNoism2も活動している。	創造系(★:本事業) ○プロデュース演劇公演:22回 ★Noism :20回 → 愛の死:6回(新潟・埼玉) NINA:5回(新潟・埼玉) Noism2夏:5回 Noism2定期:4回	・今後の活動期間(現在:H31年8月迄)について市と協議 → 2月議会でH30年度末迄に検討と答弁 ・自主財源の確保 → 法人・個人から募る支援の拡充	○	文化スポーツ部	芸術文化振興財団
本市のアイデンティティの一つである「水と土」の文化を市民と協働で掘り起し、磨き上げ、国内外へ発信します。										
(再)			200	湯の魅力創造・発信事業	本市に点在する「湯」に多くの方から来ていただき楽しんでいただく「湯」のエコミュージアム化に向け、湯に係る様々な市民活動を支援するとともに、歴史や暮らし文化など、湯の持つ様々な魅力を発信する各種事業を実施する。 ・湯の魅力創造市民活動補助金の交付 ・湯めぐりスタンプラリーの実施 ・各湯の環境整備の実施 ・シンポジウムの開催 など	・湯めぐりスタンプラリーの実施 市内に点在する湯及び関連施設を含む19ヶ所で実施 :応募者972人 ・湯シンポジウムの開催 さかなクンによる基調講演など実施:参加者430人 ・湯の魅力創造市民活動補助金の実施 湯での野菜栽培や親子でのピクニック、江戸時代の排水路遺跡を活用した事業などの市民活動を支援:実施件数10件	・新潟開港150周年記念事業に要素を集約することから、平成30年度は休止	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
(再)			201	水と土の宝物活用事業(市民プロジェクト)	市民自らが企画・運営し、アート制作やパフォーマンスの実施、地域の伝統芸能などの取り組みに対し補助金を交付する。	アーツカウンシル新潟と協働のもと、プロジェクトを募集。応募のあった38件には、書類審査に加え、今回初めてプレゼン審査を実施し、23件を採択した。団体の都合により、3件の辞退があったものの、目標とした20件の実施ができた。	・水と土の芸術祭2018にて実施するため平成30年度は休止	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
(再)			202	水と土の宝物活用事業(こどもプロジェクト)	アーティストを招へいし、ワークショップを通じて子どもたちの創造性を育む企画を実施	・全5回のワークショップのうち、夏に過去の芸術祭作品を親子で巡るキッズ・バスツアー、畑から野菜を収穫し、調理する体験の料理教室及びアフリカ音楽に親しみ、体を動かすワークショップを開催。冬には大学や地域で活動する市民団体を講師に迎えたワークショップを各1回ずつ開催した。	・水と土の芸術祭2018にて実施するため平成30年度は休止	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
本市の個性ある文化資源と他都市の文化資源がもつ共通のコンセプトにより「点」から「線」、「線」から「面」へとつなぐ、文化による広域連携を推進します。										
			203	日本遺産を通じた地域活性化	文化庁認定の日本遺産「信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化」にかかる構成文化財等を活用し、交流人口の拡大を通じた地域活性化を図る。	京都大学での特別展を計画通り実施し、想定を上回る8,600人余りの来場者を集めることにより、日本遺産「火焔型土器と雪国の文化」について広く周知することができた。	観光との連携をより深めて交流人口の拡大に寄与すること、また民間事業者との連携により事業の自律的運営を図ることが今後の課題である。30年度は協議会に民間事業者も算入できるよう規約改正を行う。	○	文化スポーツ部	歴史文化課
			204	新潟市歴史博物館と西安博物院との交流	中国西安市の西安博物院との提携で、相互の学術研究・調査交流や相互の広報、文化的交流と親善への協力を図るとともに、平成30年度開催の西安博物院展(仮称)の準備を進める。	(以下すべて指定管理) ○西安市への友好ツアー 1回 ○西安特別展事前調査(西安博物院職員の招聘含む)	(H30は開港150年事業として実施)	○	文化スポーツ部	歴史文化課
			205	新津鉄道資料館と四国鉄道文化館との交流	四国鉄道文化館(愛媛県西条市)との間で職員の出発(講演講師等)、イベント時の観光PR・物販ブースの開設等を実施	・西条市「鉄道歴史パーク in saijyo」開館10周年記念事業式典出席とシンポジウム参加 ・「いよ西条フェスタ2017」参加 ・新津鉄道資料館「サンクスフェア2017」参加と講演会の実施	・新津鉄道資料館学芸員の派遣による講演会の実施 ・市民交流の実現	○	文化スポーツ部	歴史文化課
(2) 国内外の創造都市との交流を深める										
東アジア文化都市のネットワークや「創造都市ネットワーク日本(CCNJ)」など、本市の有する国内外の都市間ネットワークを結びつけることにより、北東アジアにおける文化交流拠点としての役割を果たしていきます。										
			206	日仏文化交流事業(日仏都市・文化対話)	日仏の創造都市に加えて2015年に中韓の都市も交えて開催した「日仏中韓都市・文化対話」を、2017年秋にナント市で「日仏都市・文化対話2017」として開催し、欧州都市や東アジア都市に参加を求めるとともに、さらなる知見の交換と交流の拡大を図る。	過去の開催を契機に、具体的なプロジェクトや交流が実現しており、2015年本市開催時は中韓都市、2017年ナント市開催時はさらに欧州都市を交えた新たな枠組みで開催し、日仏間に留まらない多様な視点からの議論と交流を行うことで、本市の新たな価値を創造し、魅力を高めて創造的なまちづくりに寄与された。	日仏自治体交流会議(2008年から隔年開催)等との類似会議との差別化や、厳しい財政状況の中での開催の必要性等を整理し、見直していく必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			207	東アジア文化都市交流事業	2015年の「東アジア文化都市」として1年間交流を重ねてきた中国・青島市、韓国・清州市との文化交流事業について、3都市共同宣言に基づき継続・発展させる。これにより、都市・市民レベルでの平和・共生の関係づくりや、国際的知名度の向上、交流人口の拡大につなげる。	・青少年交流 各都市と青少年を相互に派遣し、現地の高校生とともに、各都市がそれぞれの文化の特徴を生かして開催するプログラムを通じて相互理解を深めた。 ・文化イベント交流 それぞれの都市で開催される文化イベントに芸能団を相互に派遣し合い、文化を通じた相互理解を図った。	・パートナー都市との交流の継続と歴代の開催都市間のネットワークをより強化することにより、北東アジア文化交流拠点都市としての地盤を固める。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
			208	創造都市ネットワーク関連事業	創造都市や文化政策に携わる自治体等を母体に構成される創造都市ネットワーク日本に参画することで、創造都市間の連携・交流を図る。	・セミナー及び幹事団体会議への参加	・H29年度で代表幹事の任期は終了したが、幹事都市として積極的に運営に参加することや、これまで築いてきたネットワークを活用することで文化創造都市イメージを向上させるとともに、2020年に向けた文化プログラムの推進に取り組む。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
			209	創造都市ネットワーク日本(CCNJ)運営事業	CCNJの代表幹事として運営業務を担うとともに、本市で総会及び総会に付随する併催イベントを実施。	・シンポジウム「現代アートの行方～同時代の(コンテナラリー)アート、そして、未来のアートの存在意義～」実施	・日本全国各地で展開される芸術祭を切り口に、その中心にありながらあまり議論をされてこなかった“現代アート”そのものをテーマに、日本文化としての“現代アート”の価値と存在意義を議論することで、その魅力を発信した。引き続き、2020年に向けた文化プログラムを推進する事業に継続的に取り組む。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
姉妹・友好都市や国内外の交流協定都市、東アジア文化都市選定都市との、市民団体や文化施設が主体の文化交流を支援するとともに、都市間での文化交流を推進します。										
(再)			210	日仏文化交流事業(日仏都市・文化対話)	日仏の創造都市に加えて2015年に中韓の都市も交えて開催した「日仏中韓都市・文化対話」を、2017年秋にナント市で「日仏都市・文化対話2017」として開催し、欧州都市や東アジア都市に参加を求めることで、さらなる知見の交換と交流の拡大を図る。	過去の開催を契機に、具体的プロジェクトや交流が実現しており、2015年本市開催時は中韓都市、2017年ナント市開催時はさらに欧州都市を交えた新たな枠組みで開催し、日仏間に留まらない多様な視点からの議論と交流を行うことで、本市の新たな価値を創造し、魅力を高めて創造的なまちづくりに寄与された。	日仏自治体交流会議(2008年から隔年開催)等との類似会議との差別化や、厳しい財政状況の中での開催の必要性等を整理し、見直していく必要がある。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			211	日仏文化交流事業(ナント市との文化交流等)	姉妹都市であるナント市との文化交流を推進するとともに、日仏の諸都市間における文化創造に関する多角的な交流を推進し、文化芸術による新しい価値と魅力を高め、文化創造都市としての持続的発展を目指す。事業例:総踊りによる日仏青少年交流等	予算化している事業はないが、下記のプロジェクトへ支援を行った。 ・アオサギ・デザインプロジェクトへのJAM生作品の応募(H28から継続) ・まちごと美術館のナント市への紹介(文化対話準備会議でのプレゼン・展示等)展示費用は文化対話予算に組み込み	年々予算状況が厳しさを増す中で交流を継続していくためには、民間交流を中心として行政が必要に応じて支援する形にシフトしていくことが望ましい。	○	文化スポーツ部	文化政策課
			212	京都・奈良文化交流事業	「京都市と新潟市の観光・文化交流宣言」(H25.3月)及び「奈良県と新潟市の歴史・文化交流に関する協定」に基づき、両市・県との文化交流を行うことで、総合理解を深め、歴史や観光、文化による交流の絆を強めるとともに、新しい価値を創造し、本市の魅力を高め、誇りにしていく。	平成29年9月3日(日)に京都市の橋本関雪記念館において、會津ハーフの会と奈良、京都の高僧の方々と関係者が一堂に会し、文芸講演会及び會津ハーフの作品展示する「會津ハーフがつなぐ奈良・京都と新潟の交流の集い」を実施した。	事業効果の検証を進め、事業の継続について検討する。	○	文化スポーツ部	文化政策課
(再)			213	東アジア文化都市交流事業	2015年の「東アジア文化都市」として1年間交流を重ねてきた中国・青島市、韓国・清州市との文化交流事業について、3都市共同宣言に基づき継続・発展させる。これにより、都市・市民レベルでの平和・共生の関係づくりや、国際的知名度の向上、交流人口の拡大につなげる。	・青少年交流 各都市と青少年を相互に派遣し、現地の高校生とともに、各都市がそれぞれの文化の特徴を生かして開催するプログラムを通じて相互理解を深めた。 ・文化イベント交流 それぞれの都市で開催される文化イベントに芸能団を相互に派遣し合い、文化を通じた相互理解を図った。	・パートナー都市との交流の継続と歴代の開催都市間のネットワークをより強化することにより、北東アジア文化交流拠点都市としての地盤を固める。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
			214	姉妹・友好都市等との交流の推進	姉妹・友好都市等をはじめとする海外諸都市との間で、様々な機会をとらえた文化交流団の派遣受入などを通じて、文化交流の進展と相互理解の深化を図る	・姉妹友好都市・交流協定都市文化交流ステージ ・ビロビジャン市開基80周年記念文化団派遣 その他 姉妹友好都市、交流協定都市との交流(派遣・受入)	都市間交流を実施するため、国際政治に左右されにくい信頼関係を築いていく必要がある。そのため、市民交流を中心とした長年にわたる交流を継続実施し、次世代交流へと結びつける。	○	観光・国際交流部	国際課
			215	月形町児童交流事業	友好姉妹町村であった旧月湯村と北海道月形町の児童を対象に、交流会や体験活動を通じて子供たちの成長を図る。	8月7～9日、月湯小児童57名が月形町を訪問し、児童交流研修会を実施。学校紹介、ホームステイなどを取り組み、報告文集を作成した。	健全財政をめざし持続可能な交流内容を検討のうえ、月形町と協議する必要がある。	○	南区	月湯公民館

基本方針3 文化の力を活用して都市の活力創出と成長を目指します

(1)文化創造の力を活かした交流人口拡大と地域経済活性化

本市の個性ある文化資源と他都市の文化資源がもつ共通のコンセプトにより「点」から「線」、「線」から「面」へとつなぐ、文化による広域連携を推進します。【再掲2(1)】

(再)			216	文化プログラムの推進事業(新潟の食と落語を楽しむバスツアー)	レストランバスを活用し、移動中に新潟の食を味わいながら、日本の伝統芸能文化である落語を聞くことで、新潟の豊かな食文化を楽しみ、普段、楽しむ事が少ない落語に触れる機会を市民に提供する。また、新潟の文化プログラムとして発信し、観光ツアー化することにより、交流人口の拡大を目指す。(H29のみの事業)	日程・実施コース: 3種(全5回) ①落語×魯山人と日本酒コース(6/23、30 / 9:15～12:00) 駅南出発～市美術館(魯山人展鑑賞)～車内落語(6/23桂三木男、6/30三遊亭遊里)～今代司酒造(蔵見学)～車内落語(6/23、30桂米多朗)～駅南解散 ②落語×古代ハス観賞コース(6/23、30 / 14:00～16:00) 駅南出発～バス車内で落語(6/23、30桂三木男)～北方文化博物館(館内見学)～車内落語(6/23桂米多朗、6/30三遊亭愛楽)～駅南解散 ③落語×ナイトクルーズコース(6/30 / 18:30～21:00) 駅南出発～車内落語(林家ひろ木)～みなとびあ(休憩)～新潟空港(夜景観賞)～サプライズ演出(林家こん平登場・乗車)～車内落語(三遊亭愛楽)～駅南解散 参加者: 計78名	・レストランバスを活用し、新潟の食と日本の伝統文化・落語を楽しむ企画は、参加者には概ね好評だった。今後は民間の取組へと繋げていく。	○	文化スポーツ部	文化政策課
(再)			217	日本遺産を通じた地域活性化	文化庁認定の日本遺産「信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」にかかる構成文化財等を活用し、交流人口の拡大を通じた地域活性化を図る。	京都大学での特別展を計画通り実施し、想定を上回る8,600人余りの来場者を集めることにより、日本遺産「火焰型土器と雪国の文化」について広く周知することができた。	観光との連携をより深めて交流人口の拡大に寄与すること、また民間事業者との連携により事業の自律的運営を図ることが今後の課題である。30年度は協議会に民間事業者も算入できるよう規約改正を行う。	○	文化スポーツ部	歴史文化課
(再)			218	レストランバスなどを活用したコンテンツ開発	レストランバスを活用し、美しい自然、歴史的景観、伝統芸能などの地域資源と農業体験、酒蔵見学などのさまざまな体験メニューを組合せ、本市の食文化を一体的に体験できる新しい観光コンテンツを開発する。	レストランバスツアーの実施(4月～6月まで)	【課題】 ・民間主体のガストロノミーツーリズムの展開を促進するための体制の構築 ・県外、国外へ向けたプロモーションの強化 【今後の対応】 ・運行体制について、民間事業者との役割分担を行い、市事業の縮小化を図る。	○	農林水産部	食と花の推進課
(再)			219	生産者・料理人・消費者の関係づくり(「農家の日」の開催)	生産者・料理人・消費者が交流する場を創出し相互理解を深めることで、地域の食材や食文化への理解を深めることを目的に、農村地域での農業体験と料理教室を組合せた「農家の日」を開催する。	受入先生産者・料理人を開拓すると共に、生産者・料理人らの消費者交流の機運を高めるため、受入先発案のアイデアを積極的に企画へ盛り込み、ツアーを設計した。 実績: 計6ツアー、中央区、東区を除く全区にて開催	【課題】 行政主体から徐々に民間主体のガストロノミーツーリズム企画へと移行していきたいが、地域の民間旅行業者と農村コンテンツをつなぐオペレータが不在。 【今後の対応】 ・民間旅行業者・ツアーオペレータへの関係地についての情報提供 ・ガストロノミーツーリズム受入に積極的な農業者の情報収集・集積	○	農林水産部	食と花の推進課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
(再)			220	農業体験観光ツアー	農村と都市が近接する新潟市の特性を生かし、農業体験・食・観光を組み合わせたツアーを開催し、主に首都圏からの交流人口の拡大を目指すとともに、生産現場での生産者との交流を通じ、生産者と消費者の相互の理解促進、農業・農村の活性化を図る。	地域の「食」を活用した体験受入先整備事業	受入体制の充実と周知	△	農林水産部	食と花の推進課
			221	キテ・ミテ・キタクバスツアー	新規観光客の開拓とリピーターの増加、民間バスツアーの誘発を目的とした北区の観光資源を巡るバスツアーの実施。(トマト収穫体験と農家レストラン、塩引き鮭体験、日本酒飲み比べ、等)	年5回(4月・6月・8月・10月・11月)新潟駅南口から発着をするバスツアーを実施した。コースは季節に合わせた内容とし、トマトや鮭などの特産物に係る体験ができたり、北区の朝市や福島湯散策、まちあるき等ができたりと北区の観光資源を主に組み込んだ。また、北区のお土産を1人1品に提供し、北区物産品のPRを行った。	アンケートに「また北区に訪れたいか」という項目を5段階評価で入れているが、その数値だけでこのバスツアーが、リピーターの確保につながっているかどうかを計ることが困難である。(バスツアーの満足度は天候等によっても大きく左右されてしまう)そのため、アンケート項目の再検討を行っていく必要がある。また、バスツアーのPRを市報以外の媒体でまかなえるようにしていく必要がある。	○	北区	産業振興課
本市の拠点性や文化資源を活かしたMICEの誘致を推進します。										
			222	文化関連イベント等誘致受入支援事業	新潟市へ文化関連イベント等を誘致し、受入支援を行うことで交流人口の拡大を通じた地域経済の活性化を図る。	地域の文化・スポーツ関連団体等と連携し、文化・スポーツイベント等の誘致受入支援を行った。 支援事例: 日本マンガ学会、新潟国際ダンスフェスティバル2017、全日本合唱コンクールなど ※数値目標のMICE開催件数については、課の組織目標として設定している指標であり、文化関連イベントだけでなく、スポーツイベントや学会・大会等も含んでいる。 参考(文化・スポーツコミッション資料より算出): 文化・スポーツイベント開催支援件数 68件 (うち文化関係支援件数 10件)	[課題] 誘致(開催)件数の持続的な増加 [今後の対応] 引き続き地域団体や大学等との連携を深め、情報収集を行い、コンベンション補助金制度を活用し、中小規模の学会や文化・スポーツイベント等の誘致拡大を図る。	○	観光・国際交流部	国際・広域観光課
新潟市民芸術文化会館(りゅーとびあ)を国際文化交流の拠点と位置付け、国内外への発信力の高い国際的な文化交流事業を推進します。										
(再)			223	新潟国際ダンスフェスティバル(NIDF)2017	中国・韓国・シンガポールの3ヶ国の舞踊団を招聘した「新潟国際ダンスフェスティバル」を開催し、都市間文化交流の取組をさらに発展させるとともに、本市の優れた舞台芸術の取組を国際発信する。	・4作品6公演の実施 日本、中国、韓国、シンガポールの作品を公演した。 ・ワークショップの実施 各カンパニーの滞在中に各カンパニーの芸術監督を講師に迎え、ダンス経験者対象のワークショップを開催した。 ・シンポジウムの実施 本演劇祭アーティストディレクターである金森穂氏のほか、各カンパニーの芸術監督を迎え、「アジアにおける劇場文化の未来」をテーマに議論が交わされた。	・事業を再開するにあたり、開催意義・目的を整理し、前回の反省を考慮しつつ、検討する必要がある。また、その際、経費・運営体制についても十分に検討する必要がある。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
文化芸術の創造性を活かした新たな産業と雇用の創出を促進します。										
			224	情報通信関連産業立地促進事業補助金	情報通信関連産業の立地を促進することにより、雇用機会の拡大・産業の活性化を図る	関係機関と連携し制度活用を促しながら企業立地・誘致を行った。市外からの誘致件数は上向き傾向にあるものの、目標を達成できなかった。	誘致件数については、平成28年度より大幅に増えたものの、目標件数には達しなかった。平成30年度より発足した先端技術推進室の業務に実証実験事業や共創の場創出支援事業があり、これによる技術誘致から、企業誘致につなげたい。	○	経済部	企業立地課
			225	がたまるプログラミングキャンプ	高度ICT人材育成施策の一環として、社会人や大学生だけでなく、人生初となる進路決定の迫る、中・高校生を対象にプログラミング教室を開講する。当市ICT産業の未来の担い手を育成する。	総数148名に指導を行った。	平成28年度からの要望により、複数回(5回)にわたるイベントを行った。今後は恒常的に学べる場の設置を目指していきたい。	○	経済部	企業立地課
(再)			226	食文化創造都市推進事業	新潟市の魅力である「食文化」をさらに磨きあげ、市内外に広く発信し、交流人口の増加や地域産業の活性化を図ることを目的に、産学官民が連携して立ち上げた「新潟市食文化創造都市推進会議」を運営する。会議の趣旨に賛同する企業・団体・個人を会員とし、食文化に関するセミナーの開催や会員が異業種連携して実施する取り組み(食文化創造都市推進プロジェクト)への支援などを実施。	・食文化創造都市推進会議の運営 推進委員会開催 2回 セミナー開催 2回(7月、2月) ・食文化創造都市推進プロジェクト支援事業申請21件、採択13件(うちチャレンジ事業6件、育成発展事業7件)	【課題】 助成金による会員の取り組みへの支援以外にも、取り組みの広報支援や異業種連携のきっかけづくりのセミナーといった会員メリットの創出が課題。 【今後の対応】 ・広報支援の仕組みの検討 ・会員の意見を反映したセミナー企画 ・会員増加のための積極的な勧誘	○	農林水産部	食と花の推進課
(再)			227	食文化創造都市推進プロジェクト	新潟市の食・食文化の新たな魅力や価値を生み出す取り組み「食文化創造都市推進プロジェクト」を新潟市食文化創造都市推進会議の会員が異業種連携して実施する。プロジェクトに採択された取り組みは事業費助成や広報連携などの支援を受けられる。 例: 農家・酒蔵・飲食店が手を結んで作る「新潟清酒おむすび」など	・食文化創造都市推進プロジェクト支援事業申請21件、採択13件(うちチャレンジ事業6件、育成発展事業7件)	【課題】 継続して採択されている事業が増えてきたため、新規事業が一定数採択されるような枠組みが必要。また、類似の事業を考えている事業主体のマッチング施策も検討したほうが良いと思われる。 【今後の対応】 ・継続発展事業・チャレンジ事業毎の採択枠の設置 ・連携事業者のマッチング施策の検討	○	農林水産部	食と花の推進課
			228	12次産業化推進事業	民間事業者による12次産業化関連の取組の表彰や、支援ニーズの調査等を行う。 本市の田園資源を生活に密着する分野にも活かし、産業や雇用の創出を図るとともに、安心・安全に暮らせるまちづくりを目指す。	・農福連携セミナーなど、関連性のある内容のセミナーやシンポジウムにおける12次産業化の説明及びリーフレットの配布(計3回、延べ参加者数約380名) ・優良事例表彰2017の実施(優良事例賞1点、奨励賞2点を表彰)	【課題】 ・農福連携や農村交流のプロジェクト数は新規事業もある中で、それ以外の分野との連携の拡大が課題となっている。 【今後の方向性】 ・引き続き、庁内外へ広く田園資源の活用について普及啓発に取り組んでいく。	○	農林水産部	食と花の推進課
			229	がんばるまちなか支援事業	地域の特色を活かした効果的で継続性のある商店街の空き店舗の有効活用事業を支援することにより、まちなかの活性化を図る。 ○対象経費: 改装費、賃借料、誘致活動費 ○補助率: 2/3 ○限度額: 400万円(改装費、誘致活動費)初年度、200万円(賃借料)3年間	商店街の活性化を図るため、空き店舗の有効活用や、がんばる商店街の取組に対し、店舗賃借料や改装費、備品購入費を補助。(外部有識者等による選定委員会により採択事業を選定) 29年度は、伝統芸能文化である落語を軸とした店舗や、古町の花街文化を活かした店舗を含む4件の事業を支援した。	【課題】 ・補助期間の途中で事業中止したケースが見られた。 【今後の対応】 ・地域商店魅力アップ応援事業と統廃合し、次世代店舗支援事業として引き続き商店街の空き店舗を活用した特色ある取組を支援していく。	○	経済部	商業振興課

基本方針	柱立て	実施の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
(2) 社会や地域の課題解決に文化芸術を活用										
本市全体の施策をより効率的・効果的に推進することを目指し、市民の生活に密着するあらゆる分野の施策においても文化芸術を多面的に活用します。										
(再)			230	障がい者アート支援とオール・ブリュットの展開事業	障がいのある方のアート活動やオール・ブリュットについて、アーツカウンシル新潟と協力・連携し、他団体等と連携しながら、展示会やワークショップ・セミナーを開催する。また、アーツカウンシル新潟の知見やノウハウを活用し、障がいのある方のアート活動を支援する民間団体等の活動やプロジェクトを支援し、人材の育成を進める。	<p><ナント市での事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ■「日仏都市・文化対話2017」への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月19日(木)～21日(土) ・市の取組を発表 ■新潟市美術館企画展「アナタにツナガル展」パネル展示 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月19日(木)～21日(土) <p><新潟市での事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ■インクルージョンと演劇in新潟 <ul style="list-style-type: none"> ○セミナーワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月2日(月)、3日(火)各日19:00～21:00 ・講師を招き、インクルージョンと演劇をテーマに実施 ○演劇公演 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月4日(水)19:00～21:00 ・TBTB劇団を招聘し、公演を実施 ■アート×コミュニケーション～障がい者アートが人と人を繋ぐ～ <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年2月17日(土)～19日(月) ・アート展示のほか、講演会や福祉施設訪問を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者アートの作品展示については、アートキャンプ新潟や、まちごと美術館など民間団体が主体となり、民間事業者やメディアなどを巻き込んで、次々新しい展開へと発展しているが、障がい者によるパフォーマンスアーツは未だ目立った動きが無い。 ・年々予算状況が厳しさを増す中で、一般市民向けの普及・啓発交流イベントを継続していくためには、アーツカウンシル新潟と連携しながら、民間交流を中心とした動きにシフトさせていながら、その動きを行政が必要に応じて後方支援する形が望ましい。 	○	文化スポーツ部	文化政策課
			231	文化創造交流都市ビジョンの推進	策定から5年が経過する「新潟市文化創造都市ビジョン」の見直しを行う。また、本市独自の文化芸術の取組みや都市間ネットワークを活かしながら、東京2020オリンピック・パラリンピック競技会に向けた文化プログラムを推進する。 ・「新潟市文化創造都市ビジョン」の見直し ・東京2020オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合負担金	<ul style="list-style-type: none"> ■新潟市文化創造推進本部 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年7月3日(月) ・新潟市文化創造交流都市ビジョンの推進について ・文化プログラムの推進について ■新潟市文化創造推進本部ワーキンググループ <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年2月20日(火)、21日(水) ・本ビジョンにおける施策ごとの成果・評価指標(案)の検討 ■新潟市文化創造推進委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年3月20日(火) ・新潟市文化創造交流都市ビジョン関連事業の成果検証方法について ・アーツカウンシル新潟の評価について □成果指標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンに基づく事業の評価・成果検証を行いながら、着実にビジョンを推進していく必要がある。 	○	文化スポーツ部	文化政策課
			232	新潟シティマラソン	新潟シティマラソンを開催	平成29年10月9日(月・祝)、デンカビッグスワンスタジアム前発～市陸上競技場着の新たなコースで制限時間を7時間に延長し、マラソン(42.195km)・ファンラン(10.6km)の2種目で開催。 種目ごとのエントリー数は、マラソン9,608人(定員9,000人)、ファンラン3,349人(定員3,000人)となり、いずれも目標数値を上回った。	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の新コース初開催において寄せられた意見などをもとにコースの一部変更等の改善を行い、大会の魅力アップを図るとともにSNSなどを活用した広報活動を通じて、参加者の獲得を目指す。 	○	文化スポーツ部	スポーツ振興課
			233	新潟シティライド	市内を自転車で巡るシティライドを開催	<p>自転車をもっと活用して市民の健康の維持・増進とサイクリングの普及・促進を図ることを目的として、市内をサイクリングしながらエイドステーションで新潟ならではの食を堪能できるイベントを開催した。</p> <p>ロングライド(120km)、ミドルライド(70km)ショートライド(33km)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・申込受付開始から数十分で定員に達し募集を締め切ることとなり、定員数を増やして欲しいという要望があった。 ・ロングライド・ミドルライドの定員数を増やし、多くの方に楽しんでいただける魅力のあるイベントにする。 	○	文化スポーツ部	スポーツ振興課
			234	新潟ヒルクライム	岩室温泉をスタートし、弥彦山スカイラインを山頂まで駆け上がるヒルクライムを開催	岩室地域の魅力を全国に発信し、交流人口の拡大を図るとともに、サイクリングの振興を目的として、岩室温泉をスタートし弥彦山スカイラインを麓から山頂まで自転車で駆け上がりタイムを競う競技会を開催した。	<ul style="list-style-type: none"> ・例年500人前後のエントリー者数であり、さらなるエントリー者増を目指す。 ・新カテゴリーの創設など、新しい試みにチャレンジしマンネリ化を脱却する。 	○	文化スポーツ部	スポーツ振興課
			235	放課後児童クラブ地域連携事業	コミ協が放課後児童クラブの学童を対象に昔遊び等を教えるなどの活動を実施した際に補助金を交付し、様々な文化を伝えるとともに地域の子どもを地域が見守るしくみをつくる。	コミ協の会合等で説明を実施するとともに、個別に参画に向けて直接交渉を行った。	コミ協の事務負担につながることから、新たな参画が難しい。	△	こども未来部	こども政策課
			236	シニアはつらつにいがた総おどり事業	「総おどり体操」の活用を通じて、高齢者が介護予防や健康づくり、生きがいづくりに取り組むことを促進し、健康寿命の延伸を図るとともに、多世代に渡る交流の機会を提供し、社会や地域における人々の信頼関係や結びつきを醸成する。	総おどり体操体験会を各区で実施するとともに、高齢者の自主グループ等の活動場所に指導スタッフを派遣。 体操のポイントや効果などを詳しく説明し、地域において講師役となれる方に対して、養成講座を開催し、「にいがた総おどり」等のイベントにも参加。	講師養成講座受講者の活躍の場を広げるために、高齢者の自主グループ等の活動場所に講師養成講座受講者を派遣する。	○	福祉部	高齢者支援課
			237	AKIHAsumuプロジェクト	秋葉区への移住・定住の獲得を目指し、秋葉区のブランド構築・発信や移住・定住のための仕組みづくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ AKIHAsumu移住体験ツアーの開催 ○ 秋葉区への移住希望者と空き家のマッチングづくり ○ AKIHAsumuブランド発信(プロジェクトホームページの運営・発信) 	取り組みの結果として移住者数の把握が困難であり、数値目標の設定に馴染まない面がある。また、主に若年層に対して地域への愛着・誇りを育むことによりUJターンに繋げるためには、長期的な取り組みの継続が必要である。	○	秋葉区	地域総務課
			238	若者の文化活動推進交流会「カルチャーMIXフェスタ」	あらゆる若者の自立及び社会参加、社会参画のため、若者自身が企画、運営する「若者の文化活動推進交流会」	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージイベント(ホール)での演目【Nアートコミュニケーション】新潟で活動する様々なジャンルのアーティスト(約30組100人程度)が、芝居、歌、ダンスを披露 ・合同作品展覧会【エモーショナルハーツ】若者支援センター「オール」のミニ講座で作成した習字、イラスト、小物等の作品をオールギャラリーアーティストとして展示。その他、ジャンル形態を限ることなく、新潟を拠点に活動する若者が、絵画や造形、イラスト、写真、音楽を発表。 ・俳句ワークショップ若者登録団体として活動しながら実行委員会メンバーとして企画運営に携わる若者が、ワークショップ形式で講師を務めながら俳句の楽しさをPRした。 	主体的に関わる実行委員会のコアメンバーが固定化され、一部のみに負担が偏っている現状がある。同世代の若者と関わる中で、若者支援センター「オール」を利用する若者も自立、協調性を高める力をつけることができるため、サポートしながら関わり合えるよう支援していく。	○	教育委員会	地域教育推進課

基本方針	柱立て	施策の方向性	通番	施策・事業名	概要(実施内容・目的等)	29年度における取組状況			部・区	担当課
						実施内容(実績)	課題と今後の対応	実施状況		
					社会や地域の課題解決に向けて、教育、保健、福祉、環境、地域コミュニティ活性化など様々な分野で、市民、NPO、企業、大学など多様な主体が取り組む文化芸術を活用した活動を積極的に支援します。					
(再)			239	湯の魅力創造・発信事業	本市に点在する「湯」に多くの方から来ていただき楽しんでいただく「湯」のエコミュージアム化に向け、湯に係る様々な市民活動を支援するとともに、歴史や暮らし文化など、湯の持つ様々な魅力を発信する各種事業を実施する。 ・湯の魅力創造市民活動補助金の交付 ・湯めぐりスタンプラリーの実施 ・各湯の環境整備の実施 ・シンポジウムの開催 など	・湯めぐりスタンプラリーの実施 市内に点在する湯及び関連施設を含む19ヶ所で実施 ：応募者972人 ・湯シンポジウムの開催 さかなクンによる基調講演など実施：参加者430人 ・湯の魅力創造市民活動補助金の実施 湯での野菜栽培や親子でのピクニック、江戸時代の排水路遺跡を活用した事業などの市民活動を支援：実施件数10件	・新潟開港150周年記念事業に要素を集約することから、平成30年度は休止	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
(再)			240	水と土の宝物活用事業(市民プロジェクト)	市民自らが企画・運営し、アート制作やパフォーマンスの実施、地域の伝統芸能などの取り組みに対し補助金を交付する。	アーツカウンシル新潟と協働のもと、プロジェクトを募集。応募のあった38件には、書類審査に加え、今回初めてプレゼン審査を実施し、23件を採択した。団体の都合により、3件の辞退があったものの、目標とした20件の実施ができた。	・水と土の芸術祭2018にて実施するため平成30年度は休止	○	文化スポーツ部	文化創造推進課
(再)			241	文化プログラム推進事業(アーツカウンシル関連) ・文化芸術活動の支援 ・調査研究 ・情報発信 ・企画立案	・社会包摂の実現に貢献する、あらゆる市民が主体の文化芸術活動の活性化 ・新潟文化の形成、発信による北東アジアの文化交流拠点都市の形成 ・文化芸術の多面的利活用による文化交流創造都市・新潟の基盤強化とブランド発信 ・持続的・自律的なアーツカウンシル組織の確立	・市民の文化芸術活動に対する助成、相談、マッチング等の支援活動 ・地域文化の担い手育成の支援 ・社会包摂事業の実施に向けた調査研究 ・新潟市国際文化交流事業への支援 ・県内文化施設の連携会議設置に向けた調査研究 ・自主財源の確立 ・アートマネジメント人材育成	・相談件数については、新規相談数を伸ばしていくことが課題である。 ・助成件数、相談件数等市民支援の件数については、アーツカウンシルの機能について広く周知し、存在を示していく必要がある。	○	文化スポーツ部	文化創造推進課(芸術文化振興財団)
(再)			242	がんばるまちなか支援事業	地域の特色を活かした効果的で継続性のある商店街の空き店舗の有効活用事業を支援することにより、まちなかの活性化を図る。 ○対象経費：改装費、賃借料、誘致活動費 ○補助率：2/3 ○限度額：400万円(改装費、誘致活動費)初年度、200万円(賃借料)3年間	商店街の活性化を図るため、空き店舗の有効活用や、がんばる商店街の取組みに対し、店舗賃借料や改装費、備品購入費を補助。 (外部有識者等による選定委員会により採択事業を選定) 29年度は、伝統芸能文化である落語を軸とした店舗や、古町の花街文化を活かした店舗を含む4件の事業を支援した。	【課題】 ・補助期間の途中で事業中止したケースが散見された。 【今後の対応】 ・地域商店魅力アップ応援事業と統廃合し、次世代店舗支援事業として引き続き商店街の空き店舗を活用した特色ある取組を支援していく。	○	経済部	商業振興課
			243	NIIGATAオフィス・アート・ストリート事業	「みなとまち新潟」のテーマに沿ったアート作品を公募により選考し、榎谷小路から東大通までのオフィスビルのショーウィンドー等に展示することにより、まちなかの魅力・イメージの向上を図る。	・榎谷小路～東大通の23事業に、全31点のアート作品を展示した。 ※公募25作品(応募85点から1次審査会で選考)、特別展示6作品(前年度最優秀賞受賞作家、市内高校生、市民参加ワークショップによる作品) ・商店街のクーポンの掲載、クイズラリーの実施により回遊性向上を図った。	平成30年度で事業終了することから、今後民間が主体となり実施できるよう体制を進めていくことが課題である。作品募集方法や展示場所などを精査し、実行委員会構成団体と展示会場店舗、展示作家との繋がり強化を図っていく。	○	中央区	地域課
			244	新潟薬科大学との連携による持続可能なまちづくり	産学官、地域及び住民と連携し、新潟薬科大学が持つ知的資産と学生の感性やパワーを生かし、まちなかの活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人材育成等、持続可能なまちづくりを推進する。	・まちなかの賑わいと交流…まちなか情報発信、キャリア形成実践演習、まちなかの居場所づくり(研究)等 ・健康づくり…健康・自立セミナー、Akiha健康レストランプロジェクト等 ・里山の魅力発信…里山情報バンク、里山ガイドの養成、Akihaマウンテンレパークの拡充等	・産学官及び地域等が方向性を共有しながら、区の魅力づくりや課題解決に向けて、より主体的となる活動を支援する。	○	秋葉区	地域総務課
			245	南区出会いの場づくり事業	少子化対策、晩婚化・未婚化対策、定住化の促進を目的として、独身の男女を対象に、南区での出会いイベントを開催する。 平成29年度は、アグリパークを会場に料理体験と蒔絵体験を実施。	「仲良くCOOKING 美味しい婚活はいかが？」と題して、各20人の独身男女を対象に新潟市アグリパークを会場に開催した。地元の食材を使った料理体験、白根仏壇伝統工芸士の指導による蒔絵コースターの作成などを行い、7組のカップルが成立した。	参加者の意見・感想などを踏まえて、改善するところは改善して、次年度も実施していきたい。参加者の同意が必要であるが、ホームページによるイベント状況の情報発信やカップルの成立など、良い情報はどんどん発信していく必要がある。	○	南区	地域総務課
					超高齢社会における心豊かな生活の質の向上と健康寿命の延伸に文化芸術活動を活用する可能性を探り、取り組みを推進します。					
			246	セカンドライフ農業体験	農業体験を通して消費者と生産者の交流を図ることにより、市民の農業と地域魅力への理解を進める。また、退職後のシニア世代が積極的に地域に出て活動するきっかけづくりを行い、農業サポーター等の地域活動への参加を促し、高齢者の仲間づくり、健康づくりを支援する。	市内4館で、農地での実施や農業を学ぶ回を設けて、農業理解と高齢者が活動するきっかけとした。また、高齢者施設と協働することで、施設利用者に関わりながら、農業と食について学ぶ機会となった。	農業理解と自主グループの結成や農業サポーターへの登録など活動のきっかけとなったことから、一定の成果が挙げられた。今後は、受講生の活動の支援を主に行っていくことから、事業は廃止とする。	○	教育委員会	中央公民館
					文化芸術のもつ創造性を活用し、市民の文化芸術活動を発展させ、地域の課題解決に取り組む人材を育成します。					
			247	水と土の宝物活用事業(人材育成事業)	各地域において、まちづくりや交流人口の拡大につながるプロジェクトを企画・運営していくリーダー的人材を育成するとともに、様々な活動をつなぐ交流拠点を設置することで文化活動の活性化、まちづくりの推進につなげる。	・8区全区において、将来的な地域拠点形成が期待される場所で講師(専門家、アーティスト等)を招へいし、地域で活動するマネジメント人材を育成するための勉強会を開催した。	・平成30年度は休止	○	文化スポーツ部	文化創造推進課